

令和5年度 教育委員会の事務 に関する点検評価報告書



令和6年9月
海津市教育委員会

目 次

I はじめに	・・・・・・・・ 1
(1) 趣旨	
(2) 点検・評価の対象	
(3) 点検・評価の方法と評価区分（基本施策ごとの評価について）	
(4) 点検・評価結果の構成	
II 教育委員会の会議及び教育委員の活動	・・・・・・・・ 4
(1) 会議の開催	
(2) その他の活動状況	
①教育委員の研修状況	
②教育委員の学校訪問等	
③総合教育会議への出席	
④教育委員の関係行事等への出席	
⑤広報活動	
III 教育委員会の施策 点検・評価	・・・・・・・・ 9
(1) 教育振興基本計画の基本理念	
(2) 基本的観点	
(3) 計画の体系	
(4) 内部進捗評価一覧表	
(5) 施策の総合点検評価	
IV 教育委員会の施策 外部評価	・・・・・・・・ 60
(1) 外部評価一覧表	
(2) 外部評価（学識経験による意見）	

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）」

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I はじめに

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、平成20年4月1日から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、市民に公表することが義務付けられています。

この法の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすことを目的として、海津市教育委員会の事務に関する点検及び評価を実施するものです。

(2) 点検・評価の対象

平成31年3月に策定した「第2次海津市教育振興基本計画」における、教育委員会の所管となる6つの基本目標のもと20の施策を点検と評価の対象としています。

(3) 点検・評価の方法と評価区分（基本施策ごとの評価について）

点検・評価は、教育振興基本計画に基づき長期的な視野に立って教育行政を推進していくために、P（Plan：計画）、D（Do：実行）、C（Check：点検・評価）、A（Action：改善）のマネジメントサイクルによる進行管理により毎年度実施し、評価結果を十分に活用して次年度以降の具体的な事業を検討することが必要となります。そのため、令和5年度に実施した事業の取り組み状況を明らかにするとともに、今後の課題と対応の方向性を示すこととしています。

また、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方から外部検証評価と意見、助言をいただきます。

(4) 点検・評価結果の構成

ア 基本目標・施策・施策方針

第2次海津市教育振興基本計画に掲げる基本目標です。

イ 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

基本目標・施策に関する進捗評価を実施しています。また、進捗評価の理由及び今後の方向性についても記載しています。

進捗の評価区分 (4段階)	S・・・・・・・・予定以上に進んでいる。 A・・・・・・・・予定どおり進んでいる。 B・・・・・・・・少し遅れている。 C・・・・・・・・大幅に遅れている。
------------------	---

ウ 参考とする指標

第2次海津市総合計画

エ 基本施策に関する評価シート

20の施策に掲げたそれぞれの「基本施策」をシートに取りまとめています。

①基本施策〔取組目標 年度計画〕

各施策に掲げられた取り組むべき目標とその年度の計画を示しています。

②基本施策〔実績成果 課題〕

年度計画の実施に伴いその内容と成果及び課題等を示しています。

③内部評価

基本施策に伴う実績成果・課題を踏まえ4段階評価をしています。

◎・・・・・・・・十分達成

○・・・・・・・・おおむね達成

△・・・・・・・・やや不十分

×・・・・・・・・達成できず

記載事項説明書

第2次海津市教育振興基本計画における
「基本目標」と「施策の方針」と「基本施策」

施策の総合点検評価		担当課	こども未来課
基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検証 評価	外部評価
施策	2 子育て家庭への支援の充実		
施策方針	すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるように子育て支援サービスを充実します。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況 S A B C 方向性			
進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる		進捗評価の理由および施策の方向性などを記載
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		
参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)			
成果指標		策定時(H27)	実績値(R5)
地域子育て支援拠点 延べ利用者数		17,838人	15,000人
留守家庭児童教室利用者数		360人	360人
基本施策に関する評価シート(★は令和2年度の重点的な取り組み)		内部評価(所属課) ◎ ○ △ ×	
多様な子育て支援サービスの充実			
取組目標	子育て支援ニーズを把握し、計画的に子育て支援サービスを支援できる体制を整備します。また、共働き世帯が働きながら安心して子どもを預けられるように低年齢児保育事業、延長保育事業、一時預かり事業、留守家庭児童教室事業などの多様な子育て支援サービスの充実に努めます。		
年度計画	Plan「P」(計画)	内部評価 check「C」(評価)	
実績成果	Do「D」(実行)		
課題	Action「A」(改善)	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず	

Ⅱ 教育委員会の会議及び 教 育 委 員 の 活 動

Ⅱ 教育委員会の会議及び活動状況

令和5年度の教育委員会の活動について、「教育委員会」と「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会による点検を行いました。

(1) 会議の開催

教育委員会は、原則、毎月1回の予定で開催しています。

令和5年度は、15回開催、付議された議案は合計96件でありました。

以下、令和5年度の開催状況の詳細を報告します。

○令和5年度教育委員会の開催状況

回 数	期 日	案 件
第 1 回	令和 5 年 4 月 4 日（火）	2 件
第 2 回	令和 5 年 4 月 2 7 日（木）	1 8 件
第 3 回	令和 5 年 5 月 1 9 日（金）	8 件
第 4 回	令和 5 年 6 月 3 0 日（金）	4 件
第 5 回	令和 5 年 7 月 1 8 日（火）	2 件
第 6 回	令和 5 年 8 月 2 5 日（金）	5 件
第 7 回	令和 5 年 9 月 2 0 日（水）	4 件
第 8 回	令和 5 年 1 0 月 2 3 日（月）	6 件
第 9 回	令和 5 年 1 1 月 2 0 日（月）	8 件
第 1 0 回	令和 5 年 1 2 月 1 8 日（月）	6 件
第 1 1 回	令和 6 年 1 月 1 7 日（水）	1 件
第 1 2 回	令和 6 年 1 月 2 6 日（金）	4 件
第 1 3 回	令和 6 年 2 月 2 0 日（火）	5 件
第 1 4 回	令和 6 年 3 月 8 日（金）	4 件
第 1 5 回	令和 6 年 3 月 2 2 日（金）	1 9 件
合 計		9 6 件

ア 議案について

教育委員会の権限に属する事務の執行は、「海津市教育委員会教育長事務委任規則^{※1}」第2条に掲げるものを除き、その権限を教育長に委任すると定められています。一方で、同規則第3条は委任された事務についても重要かつ異例の事態が生じたときは教育委員会の決定に委ねるとしています。そのため、重要事項の多くは教育委員会の会議の場で決定されています。令和5年度に付議された議案は、全て会議規則に従い適切に処理されました。

また、議事の終了後には、事務局各課から事業の実績・進捗状況及び計画等について報告又は説明を行い、今日的な教育課題への対応等、共通の認識を持ちつつ理解を深めることと致しました。

※ 1 海津市教育委員会教育長事務委任規則 （抜粋）

（事務委任）

第2条 教育委員会は、次に掲げる事項を除き、その権限に属する事務を教育長に委任する。

- (1) 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。
- (2) 学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。
- (3) 1 件 1,000 万円を超える教育財産の取得を市長に申し出ること。
- (4) 県費負担教職員の懲戒及び任免その他の進退について内申すること。
- (5) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (6) 前 2 号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め、及び懲戒を行うこと。
- (7) 県費負担教職員以外の学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関及び事務局の職員(臨時的任用職員及び非常勤の職員を除く。)の任免その他の人事に関すること。
- (8) 県費負担教職員以外の学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関及び事務局の職員(臨時的任用職員及び非常勤の職員を除く。)の懲戒に関すること。
- (9) 1 件 1,000 万円以上の工事の計画を策定すること。
- (10) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃を行うこと。
- (11) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を市長に申し出ること。
- (12) 法律若しくは、これに基づく政令又は条例に基づき置かれている附属機関の委員又は委員を委嘱すること。
- (13) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (14) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 公文書の公開の決定に関すること。
- (16) 個人情報の開示、請求及び削除の決定に関すること。
- (17) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 26 条の規定による点検及び評価に関すること。

イ 議事について

簡易な事務手続き等の案件を除き、条例や規則の改正あるいは、事業計画の承認等、重要事項の審議は、問題意識を共有して事業効果の高い結果が得られるよう、事務局に詳細な説明を求め、活発な議論が展開されました。

また、事務局は、資料の提示や詳細な説明等、より多くの情報提供に努め、メリハリのある会議の運営に努めました。

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議以外にも研修や学校訪問等の実施あるいは、関連する教育団体との懇談などに参加しました。

ア 教育委員の研修状況

期 日	場 所	内 容
令和5年11月29日(水)	- 学校法人西濃学園 - 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館	学校、社会教育分野等の施設を視察
令和6年1月17日(水)	- 東海環状自動車道養老トンネル(仮称)建設現場 - 海津小学校増築棟	市内施設等を視察

イ 教育委員の学校等訪問

令和5年度においては、市内の小・中学校等を訪問し、子どもたちの学びの様子や学校の運営方針、施設、教育環境、授業等、さまざまな視点で、その学校の良さや、抱えている課題などを把握することに努めました。

期 日		訪問先等
5月	23日(火)	大江小学校
6月	6日(火)	城山小学校
	7日(水)	平田中学校
	20日(火)	今尾小学校
	30日(金)	日新中学校
7月	4日(火)	石津認定こども園
	11日(火)	高須認定こども園
9月	8日(金)	高須小学校
	13日(水)	吉里小学校
	15日(金)	東江小学校
	20日(水)	城南中学校
	26日(火)	下多度小学校
	27日(水)	西江小学校研究発表会
10月	31日(火)	海西小学校研究発表会
11月	14日(火)	石津小学校研究発表会

ウ 総合教育会議への出席

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成27年度から「海津市総合教育会議」を設置しました。会議は、市長と教育委員会で構成され、互いが十分な意思疎通を図り教育課題を共有して、より一層、民意を反映した教育行政を推進するために市長が招集するもので、以下のとおり開催され出席しました。

回 数	期 日	場 所	案 件
第1回	令和5年7月18日（火）	海津市役所 東館 4－1会議室	2件
第2回	令和6年2月20日（火）	海津市役所 東館 4－1会議室	2件

エ 教育委員の関係行事等への出席

期 日		主要行事等	場 所
4月	7日（金）	小中学校「入学式」	各小中学校
3月	8日（金）	中学校「卒業式」	各中学校
	21日（木）	小学校「卒業式」	各小学校

その他に運動会、スポーツフェスタ等に出席しました。

オ 広報活動

定期的に開催する教育委員会会議をはじめとして、その主な活動は、海津市ホームページで公開しました。

今後もより一層、市民の皆様のご理解とご協力を得るため、広報紙やホームページ等を工夫する必要があると考えています。

カ 海津町地域小学校の閉校式及び記念事業

学 校 名	期 日	場 所
高須小学校	令和6年2月16日（金）	学校体育館・グラウンド
吉里小学校	令和6年2月10日（土）	学校体育館
東江小学校	令和6年2月17日（土）	学校体育館
大江小学校	令和6年2月 3日（土）	学校体育館
西江小学校	令和6年3月 1日（金）	学校体育館

Ⅲ 教育委員会の施策 点 検 ・ 評 価

※ 「社会教育課」及び「スポーツ課」は、令和6年4月1日より組織改編に伴い、「文化・スポーツ課」において評価を行った。

(1) 教育振興基本計画の基本理念

本市は、平成 29 年(2017 年)3 月、まちづくりの基本的な方向を示す「第 2 次総合計画」を策定しました。本市の優れた自然環境の中で、安心して子育てができ、働き、生活ができるまちとなるように、目指すべき将来像として「水と緑と人がきらめく 輪でつながる まち 海津」を掲げております。その中で、教育施策の柱として「個性と創造性を培うところ豊かなまちづくり」を進めています。

一方、教育の一層の振興を図っていくためには、今後の本市の教育を見据えた基本的な方向を明確にするとともに、その実現に向けて、どのような教育施策を、どのように進めていくかを明らかにしていく必要があります。

そのため、海津市教育振興基本計画の基本理念を引き続き「いのちをつなぐ教育」として継承し、市民が心豊かな一人一人がともに生きる喜びを感じる教育を目指しています。

【基本理念】

「いのち」をつなぐ教育

心豊かな一人一人がともに生きる喜びを感じる教育

(2) 基本的観点

世代をつなぐ 『世代がつながり 生き方を育む』

- ①「生きる力」の基礎を育み、自立できる力をつける。
- ②「生きる力」を育み、豊かな人間性を身につける。
- ③生きがいと共生を地域の中での学習活動を通して目指す。
- ④多様なニーズを要する子どもたちに学習支援の充実を目指す。

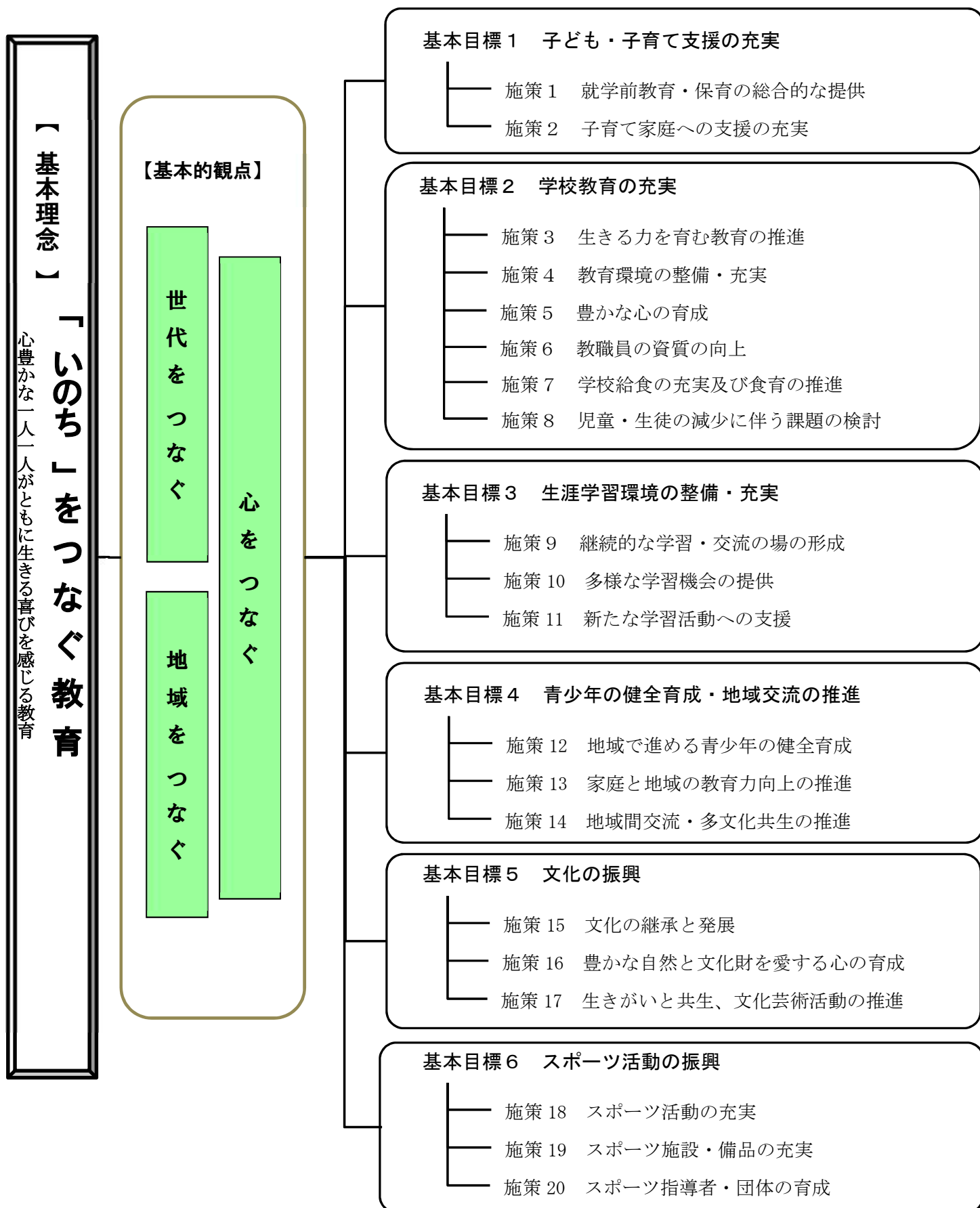
地域をつなぐ 『地域がつながり 生きる喜びを感じる』

- ①家庭の教育力を高めるための学習機会や情報提供を充実させる。
- ②地域がつながり、地域ぐるみで良好な環境づくりを進め、青少年の健全育成を進める。
- ③地域に根ざし、市民のつながりを生み出すスポーツ・レクリエーション活動の活性化を図る。
- ④歴史上や姉妹都市等、関わりのある市町とのつながり、交流を行い、地域づくりを進める。

心をつなぐ 『心がつながり 愛情と思いやりに溢れる人を創る』

- ①心のふれあいを大切に、温かい人間関係をつくる。
- ②海津の文化を愛し、継承・発展を進め、郷土を愛する心を育む。

(3) 計画の体系



(4)内部進捗評価一覧表 (★は令和5年度の重点的な取り組み)

第2次海津市教育振興基本計画		「基本目標」	
【基本目標の施策】		担当課	
基本施策		進捗評価	内部評価
「基本目標1」 子ども・子育て支援の充実			
【施策1】 就学前教育・保育の総合的な提供		こども未来課	
★① 認定こども園における幼児教育の推進	A		○
② 小学校との連携			○
③ 配慮が必要な子どもへの支援			○
★④ 就学前教育・保育施設の整備			○
⑤ 保育教諭の資質向上			○
【施策2】 子育て家庭への支援の充実		こども未来課	
① 多様な子育て支援サービスの充実	A		○
★② 相談体制の充実			○
③ 情報提供の充実			○
「基本目標2」 学校教育の充実			
【施策3】 生きる力を育む教育の推進		学校教育課	
① 「軸」を明確にした学校経営の推進	A		○
② 確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実			○
★③ 基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実			○
★④ 思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実			◎
⑤ 学びに向かう力を高める取組の充実			○
★⑥ 多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実			◎
⑦ 外国語活動の充実			○
⑧ キャリア教育の推進			○
⑨ 郷土学習の推進			○
【施策4】 教育環境の整備・充実		教育総務課・学校教育課	
★① 学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進	A		○
★② 教育環境における情報機器設備の充実			○
③ 安全な通学路の確保			○
【施策5】 豊かな心の育成		学校教育課	
① 道徳教育の充実	A		○
② 多様な体験活動の推進			○
★③ 人権同和教育の推進			○
【施策6】 教職員の資質の向上		学校教育課	
① 「海津市教育のスタンダード」の活用	A		○
★② 教職員研修の充実			◎
③ 特別支援教育に関わる教職員の研修			○
④ 研究授業や公開授業、交流授業などの促進			○
⑤ 子どもと向き合う時間の確保			○
【施策7】 学校給食の充実及び食育の推進		教育総務課(給食センター)	
★① 地域全体で取組む食育の推進	A		○
② 学校給食の充実			○
③ 学校給食の衛生管理と事故防止の徹底			○
④ 学校給食センターの効率的な運用・整備			○
⑤ 学校における事務負担の軽減			○
⑥ 給食の提供における緊急対応			○
【施策8】 児童・生徒の減少に伴う課題の検討		教育総務課	
★① 海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会の設置と協議	A		◎
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実			
【施策9】 継続的な学習・交流の場の形成		社会教育課	
★① 生涯学習ニーズの把握	A		○
② 学習情報の収集・整備			○
③ 社会教育施設などの整備とネットワーク化			○

(4) 内部進捗評価一覧表 (★は令和5年度の重点的な取り組み)

第2次海津市教育振興基本計画		「基本目標」	
【基本目標の施策】		担当課	
基本施策		進捗評価	内部評価
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実			
【施策10】 多様な学習機会の提供		社会教育課	
① 生涯学習活動と指導者の育成		A	○
★② 生涯学習の意識啓発			○
★③ 図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実			○
【施策11】 新たな学習活動への支援		社会教育課	
① 学習活動を支援する人材の活用		A	○
② 高齢者のもつ技能の伝承			○
★③ 学習機会の充実			○
「基本目標4」 青少年の健全育成・地域交流の推進			
【施策12】 地域で進める青少年の健全育成		社会教育課	
① 「こども健全育成指針」の推進		A	○
★② 子どもの生活習慣の確立に向けた支援			○
③ 組織的な活動の充実			○
④ 青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上			○
【施策13】 家庭と地域の教育力向上の推進		社会教育課	
① 「あたりまえ」のことができる家庭教育支援」の推進		A	○
★② 子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実			○
③ 地域と連携した活動の充実			○
【施策14】 地域間交流・多文化共生の推進		社会教育課	
★① 交流教育の充実		A	◎
② 多文化共生の推進			○
【施策15】 文化の継承と発展		社会教育課	
★① 指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成		A	○
② 文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究			○
③ 文化資源の活用			○
④ 文化財指定基準の運用			○
【施策16】 豊かな自然と文化財を愛する心の育成		社会教育課	
① 文化財の情報発信と周知		A	○
② 自然・歴史資源の発見と活用			○
★③ 歴史民俗資料館運営の充実			○
【施策17】 生きがいと共生、文化芸術活動の推進		社会教育課	
① 市民文化活動への支援		A	○
② 文化や芸術に親しむ機会の提供			○
★③ 市民参加型による芸術創作活動の奨励			◎
④ 多様な文化芸術活動の支援			○
「基本目標6」 スポーツ活動の振興			
【施策18】 スポーツ活動の充実		スポーツ課	
★① 子どものスポーツ活動の推進		A	○
② 高齢者や障がい者スポーツ活動の推進			○
★③			○
④ スポーツ観戦機会の創出			○
【施策19】 スポーツ施設・備品の充実		スポーツ課	
★① 体育施設の充実		A	○
② スポーツ備品の充実			○
【施策20】 スポーツ指導者・団体の育成		スポーツ課	
① スポーツ団体の育成		A	○
★② 指導者の育成と確保及び活用			◎
③ 競技スポーツ活動の支援			○

（５）施策の総合点検評価

基本目標 １

子ども・子育て支援の充実

		担当課	こども未来課	
基本目標		1 子ども・子育て支援の充実		外部 検証 評価 継続・妥当
施 策		1 就学前教育・保育の総合的な提供		
施策方針	子どもたちの「生きる力」の基礎を育て、心身の発達を促します。			評価 段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評 価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	幼児教育・保育研究会、保育協会の研修事業等を通して、保育教諭の質の向上、小学校へのスムーズな接続につなげることができた。	
A	予定どおり進んでいる		配慮が必要な児童に関しては、市発達支援センターと園と保護者とが連携することができた。市内認定こども園では老朽化した設備について修繕等を行い、児童が安全に園生活を送ることができるよう整備することができた。	
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成 果 指 標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
特定教育・保育施設 利用者数		1,050人	710人	700人
待機児童数		0人	0人	0人
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①認定こども園における幼児教育の推進				
取組目標	子どもがのびのびと活動できる環境設定とふさわしい基本的生活習慣、規範意識、道徳性が身につくよう指導計画や指導方法の充実を図る。また、自然体験、生活体験、社会体験の学習機会の導入に努める。			
★ 年度計画	公立認定こども園では、次の保育につながる記録の取り方を工夫し、子どもの育ちを読み取って次の指導援助につなげ、子どもの主体性を育む。 園内研究会を実施し、自身の保育のあり方を振り返ることで、保育の質の向上を図る。また、日常生活の中で、子どもの発達に必要な経験を職員が意図的に計画することで、生きる力の基となる非認知能力を育てる。			内部評価
★ 実績成果	園児がのびのびと活動できる環境を整え、基本的生活習慣、年齢にあった道徳意識等が身につくよう指導計画を作成し、実践することで園児の主体性を育むことができた。 園・小連携協議会での意見交流では互いの現状を伝えあったり、新1年生の授業参観を通じて情報交換を行って、園での指導につなげ保育の質を向上することができた。			○
課題	園児の家庭環境が多様化し、基本的生活習慣や、道徳意識等についての指導案の作成が難しくなってきたと感じる。園での生活の中で、園児の発達に必要な経験を通し、生きる力の基となる非認知能力を今後も引き続き育てていく必要がある。			◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
②小学校との連携強化				
取組目標	園・小連携協議会などを通じて、園児と児童の交流や教職員と保育教諭の交流を実施し、相互に子どもの発達や学びに対する理解を深め連携強化を図る。また特別に配慮を要する子どもについては、関係諸機関と情報を共有し、途切れのない支援を繋げていく。			
★ 年度計画	園・小連携協議会や小学校との交流活動を通じて、園児と児童・教員と保育教諭との交流を実施し、一層の相互理解を深め連携を図る。特別に配慮が必要な子どもについては、関係機関と連携を図るとともに引継ぎ会などの機会を有効活用し、途切れのない支援を行う。			内部評価
★ 実績成果	年3回の園・小連携協議会や小学校との交流活動を実施した。年度初めには、認定こども園の保育教諭が新1年生の授業参観を行い、夏休みには小学校教諭が保育を参観することで、互いの教育への関心を高め途切れのない支援につなげることができた。			○

課題	一部の教師や保育士同士の連携に終わらず、学校・認定こども園全体の取組となることが重要である。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	--	--	--

③配慮が必要な子どもへの支援			
取組目標	市発達支援センターが中心となり、巡回相談を通じて障がいなどの早期発見、早期支援に努める。また、障がいのある子を受け入れるように、保育教諭などを加配する療育支援体制強化事業を促進する。		
年度計画	市発達支援センターくすみ主催の巡回相談（年2回）や自主研修会（年8回）を通じて、障がいなどの早期発見や適切な支援について情報を共有し、指導方法を学ぶ。障がいのある子を受け入れるよう療育支援体制強化事業を活用し、体制を整える。	内部評価	
実績成果	巡回相談や自主研修会を通じて、支援を必要とする園児への適切な支援方法について学び、関係機関と情報を共有することができた。 療育支援体制強化事業を私立7園が活用し、支援が必要な園児が入所できるよう体制を整えることができた。		○
課題	集団生活において支援を必要とする園児が増加傾向にあるため、集団生活での園児の様子を保護者へ伝え情報共有を図る必要がある。保護者に対しての家庭支援が必要となる場合も多く、関係機関との連携をより強化し、適切な支援につなげていくことが課題である。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④就学前教育・保育施設の整備			
取組目標	人口減少に対応した市内全域における就学前施設の適正配置の検討を進める。また、子どもが安全で安心して生活でき、災害発生時にも一時避難ができる安全な施設や設備の環境整備に努める。		
年度計画	老朽化した施設の改修及び保育備品等の更新を実施し、子どもが安全に園生活を送ることができるよう努める。災害時における各認定こども園の避難確保計画について必要に応じて更新を図る。	内部評価	
実績成果	公立認定こども園において、トイレの排水不良や非常階段のモルタル補修など、老朽化に伴う施設の修繕を実施したほか、園児が安全に遊ぶことができるよう遊具の不良箇所の修繕を実施した。私立認定こども園においては、施設改修や保育備品の購入など柔軟に対応が可能な保育環境向上等事業補助金を活用した施設整備を実施した。（令和5年度は4園が実施。）		○
課題	子どもが安全で安心な園生活を送ることができるよう、必要な施設整備を計画的に実施していくとともに、各種マニュアルや計画の見直しを行うなど、適切な運営・管理に努めていく必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤保育教諭の資質向上			
取組目標	就学前の子どもが同一水準で質の高い教育・保育を受けられるように、海津市幼児教育・保育研究会での研究・研修を進める。また、認定こども園での教育・保育内容の充実を目指し、市の保育協会などによる各種研修や交流機会を充実し、保育教諭などの資質向上を図る。		
年度計画	市幼児教育・保育研究会にて毎年テーマを決めて年5回研究・研修を進める。また、市の保育協会による研修会に参加し、公立・私立の保育教諭の交流と資質向上を図る。	内部評価	
実績成果	市幼児教育・保育研究会にて「体力をつける運動遊び」～コロナ禍を超えて～をテーマに3回の公開保育、授業を行い、2回の研修会を行った。保育協会主催の研修会を年5回開催し、毎回50人程の保育教諭が参加し、専門性と資質向上につなげることができた。		○
課題	幼児教育・保育研究会では、園の行事等により担当者の欠席がある。日程調整を綿密に行うことや、代替者の出席を依頼する必要がある。研修会については、更なる資質向上に向け、講師の選定や研修方法について検討していく必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

		担当課	こども未来課
基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	2 子育て家庭への支援の充実		
施策方針	すべての家庭が安心して子育てで、育てる喜びを感じられるように子育て支援サービスを充実します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	「第2期海津市子ども・子育て支援事業計画」に沿って施策を実施することができた。今後は、令和5年に策定された「こども大綱」に添いながら「第3期海津市子ども・子育て支援事業計画」の策定を進め、多様化する子育てニーズへの対応や、関係機関との連携強化を図り、相談・支援の充実に努めていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
地域子育て支援拠点 延べ利用者数	17,838人	16,481人	15,000人
留守家庭児童教室利用者数	360人	302人	370人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)

①多様な子育て支援サービスの充実

取組目標	子育て支援ニーズを把握し、計画的に子育て支援サービスを支援できる体制を整備する。また、共働き世帯が働きながら安心して子どもを預けられるように低年齢児保育事業、延長保育事業、一時預かり事業、留守家庭児童教室事業などの多様な子育て支援サービスの充実に努める。	
年度計画	令和2年度から5年間を計画期間とする「第二期海津市子ども・子育て支援事業計画」を振り返り、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援に関する事業について子育て世帯に取りこぼしのない支援体制の整備を図る。	内部評価
実績成果	保護者が安心して子どもを預けて働ける環境を提供するため、全園において、低年齢児保育、延長保育、一時預かり事業を実施した。また、満3歳未満の子どもを持つ保護者を対象に「子育てエンJOYクーポン」を交付し、一時預かり事業を拡充し子育て世代に取りこぼしのない支援体制につなげることができた。 留守家庭児童教室は、全小学校下において開室し、放課後や週末等の子どもの居場所を確保することができた。	○
課題	ファミリー・サポート事業や留守家庭児童教室の民間運営を令和6年10月から開始するため、安全で安心できるこどもの居場所づくりができるように、事業整備を確実に進めていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



高須認定こども園(すこやか園舎)



石津認定こども園

②相談体制の充実

取組目標	地域子育て支援拠点事業を提供し、子育てに不安や悩みをもっている親に対する相談・援助の機能を充実する。また、市民が積極的に子育て支援に関わることを促進し、地域子育て機能の強化を図るとともに、子育てを支援する人材の育成に努める。	
★年度計画	令和6年度からスタート予定の「子ども家庭センター」に向け、市の部局（健康課・社会福祉課）と連携し、より複雑化した相談に対応できるよう、必要な体制の整備を図る。	内部評価
実績成果	子ども家庭センターの設置に向けて、健康課、社会福祉課と協議を重ね、令和6年4月からの子育て相談体制を整備した。	○
課題	子ども家庭センター、地域子育て支援拠点、令和6年11月からオープンする海津市こども未来館と連携しながら、子育てに不安や悩みを抱える親に対する相談や援助の連携体制を構築していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③情報提供の充実

取組目標	「海津市子育て支援ガイド」を定期的に作成し、子育てに携わる市民や転入者に配布し、子育て支援サービスの利用を促進する。また、本市での子育てに関する情報を発信するホームページ「海津市子育て支援サイト」の充実に努める。	
★年度計画	市ホームページや「キッズコミュ海津市子育てフェイスブック」を通じて、子育てに関する情報を発信する。健康課と連携し、市内の子育て支援センターの情報を母子保健事業の会場で配布するなど情報の発信を図る。	内部評価
実績成果	市報や「キッズコミュ海津市子育てフェイスブック」を通じて、子育てに関する情報や活動内容を発信することができた。また、子育て支援だよりを定期的に発行し、公式LINEを通じて、活動内容のお知らせを発信することができた。	○
課題	「海津市子育て支援ガイド」の内容更新を定期的に行い、転入者等に向けた子育て支援サービス利用を促進する必要がある。また、SNS等を積極的に活用し、子育て支援に関する情報を子育て世代に広く届けられるように努めていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



子育て支援センターかいづ



こども未来館(キッズ広場)

基本目標 2

学校教育の充実

		担当課	学校教育課	
基本目標	2 学校教育の充実			外部 検証 評価 継続・妥当
施策	3 生きる力を育む教育の推進			
施策方針	子どもたちが確かな学力を身につけることで「生きる力」を育み、豊かな人間性を育てていきます。			評価 段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	各学校で、思考力・判断力・表現力と主体的に学ぶ力を育てる授業を実施するために、GIGAスクール構想で整備されたICT環境を活用する施策に重点的に取り組んだ。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
学校が楽しいと思っている児童・生徒の割合	80%	89.4%	85%

学習状況調査結果より(対象: 小6、中3)

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)

①「軸」を明確にした学校経営の推進

取組目標	学校の特色を活かし、目指す子どもの姿をもとに目標を掲げ、それを具現化に向けた「軸」を明確にした学校経営を行う。	
年度計画	校長が「軸」を明確にした学校経営を行う。また、市教委訪問、生徒指導訪問などの機会を通して達成状況を見届け支援する。	内部評価
実績成果	各学校で校長が示す「軸」をもとに学校運営ができた。全ての学校に、市教委訪問と生徒指導訪問を年1回ずつ行った。訪問では各学級でICT機器を活用した授業を参観した。校長の学校経営方針をもとに、教職員や児童生徒の様子や教頭、教務主任、生徒指導主事の取組について達成状況を見届け、助言することができた。	○
課題	学校の特色をさらに生かした学校経営を、校長のリーダーシップのもとで行っていくため引き続き、学校訪問の機会に児童生徒の様子や学校運営の達成状況を見届ける必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実

取組目標	学習のねらいを明確にし、「生きる力」を一人一人に対し育成していくための指導の工夫と充実を図る。	
年度計画	学習のねらいを明確にした指導計画に基づいた指導を行う。各種指導計画についての実施状況や、改善の状況を確認する。	内部評価
実績成果	今までの指導計画の中に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意図した学習活動を取り入れていくことができた。各学校で教育計画を作成し、計画に基づいて、ねらいを明確にした授業を行うことができた。各種全体計画・指導計画についても、各学校で作成し、改善状況を確認することができた。	○

課題	児童生徒主体の授業改革をさらに推進するために、積極的に外部講師に指導を受けたり、学校間で積極的に交流し学び合える機会を意識的に位置づけるなどとして、指導改善を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実

取組目標	子どもたちに、生きて働く知識・技能を身につけるために、だれもがわかる授業を展開する。また、間違いやすい学習内容の確実な習得を目指すため繰り返し学習を行う。そのためにコンピュータの活用をはじめ実態に応じた個別学習の充実を図るなどして知識・技能の習得に努める。	
★年度計画	小学校の教科担任制の導入をさらに進めたり、少人数指導を行ったりすることで、基礎的な知識・技能の定着に努める。また、市内の教職員でタブレット端末の効果的な活用を共有しながら、個別最適化された学習を進める。	内部評価
★実績成果	デジタル教科書と大型モニターを活用し、視覚的にも分かる授業を行うことができた。また、小学校1年生から中学校3年生でAIドリルを活用し、個々にあった問題を解きながら知識・技能を習得させることができた。全ての小学校で教科担任制を実施した。小学校の算数・外国語、中学校の数学・英語で少人数指導を実施し、教師の専門性を生かした授業や個に応じた授業を行うことで基礎的な学習内容を定着させることができた。	○
課題	児童生徒が積極的にAIドリルを活用し、知識・技能の定着を図ることができるよう、各学校で活用のさらなる工夫を行い、児童生徒の活用状況を今後の指導に生かしたりする必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実

取組目標	国語をはじめ各教科などにおいて、記録、要約、説明及び論述などの言語活動を取り入れ、言語の力を高めるための学習環境の充実を目指す。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、タブレットや電子黒板などを活用し、様々な授業形態の工夫などの授業改善に努める。	
★年度計画	言語活動を意図的に取り入れた授業改善に取り組み、協働的な学習の推進を図る。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、タブレット端末や電子黒板等を活用し、授業形態の工夫などの授業改善を進める。	内部評価
★実績成果	全ての学校で、協働学習を研究の中心とし、「思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫」が行われた。児童生徒が主体的に、仲間と協働しながら、課題解決に向けて自分の考えを表現でき、授業改善が行えるよう平田中学校を会場に研修会を行い、指導改善を促進することができた。また、海西小で「算数科」の研究発表会を行い、市内教職員で研究成果を共有できた。	◎
課題	児童生徒の実態に応じた課題や発展的な課題を作成し、さらに思考力等を伸ばせるように各学校のそれぞれの教科で作成した課題を全職員で共有できるように環境を整備する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤学びに向かう力を高める取組の充実

取組目標	独自の教材や学習環境を積極的に活用することで楽しい授業づくりを進める。また、校外学習や体験活動の機会を増やすことや、専門性の高い外部講師を招くなど、子どもたちの学習に対する興味や関心を高めるように努める。	
★年度計画	校外学習や体験活動、外部講師の講話などの機会を充実させ、地域の教育力を生かし児童生徒の学習に対する興味・関心を高めるように努める。また、児童生徒の主体的な学びにつながるよう、タブレット端末を活用した授業改善を図る。	内部評価
★実績成果	小学校では、自然に触れ施設で学ぶ体験活動を行った。また、各学校で外部講師を招いての授業も多く各学校で行われた。タブレットを活用した授業において、総合的な学習の時間での調べ学習、デザイン作成、生活科や図画工作科の作品等の記録、外国とつないで現地職員や英語講師との授業など、タブレット等の活用の幅をさらに広げることで授業改善につなげることができた。	○
課題	今後も豊かな体験活動や楽しい授業づくりを実践し、児童生徒の興味や関心を高めるために、地域人材や専門性の高い外部講師の確保をしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑥多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実

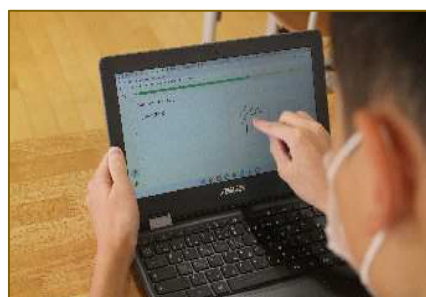
取組目標	特別な支援を必要とする子どもたちと可能な限り、すべての子どもがともに十分な教育を受けられるように多様で柔軟な仕組みを整備する。また、子どもたちが安心して教育を受けられる魅力ある学校づくりを推進するとともに、不登校の子どもに対する多様で適切な教育機会の確保に努める。	
★年度計画	すべての子どもがともに十分な教育を受けられるよう、多様で柔軟な仕組みを推進する。また、2つの教育支援教室を効果的に運営しながら、不登校の子どもに対する多様で適切な教育機会の確保に努める。	内部評価
実績成果	高須フレンドリールーム、駒野フレンドリールームを有効に活用し、児童生徒の居場所となるよう個に応じた活動を行い、学校と連携を密にすることができた。両教室とも、Wi-Fi環境を整備し、AIドリルの活用や、学校からの連絡をタイムリーに受け取ることで不登校の子どもに対する多様で適切な教育機会を確保することができた。また、令和6年4月より総合教育センター開設に向けて整備体制を整えた。	◎
課題	それぞれのフレンドリールームの特色を生かした教室運営を意識して活動場所を整備する必要がある。児童生徒及び保護者のニーズを捉え、教育支援教室の運営に努める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑦外国語活動の充実

取組目標	A L T（外国語指導助手）や小学校外国語活動インストラクターを配置して、外国語科や外国語活動の授業における子どものコミュニケーション能力（身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力）の向上に努める。	
★年度計画	全小中学校にA L T（外国語指導助手）を配置する。また、小学校5・6年生の英語科の授業には、英語インストラクターを配置し、コミュニケーション能力の向上に努める。	内部評価
実績成果	中学校には毎週、小学校には隔週でA L Tを配置し、英語でのコミュニケーション能力を高める指導を行った。担任だけでは十分な指導が難しい発音面や会話場面などを補うことができた。 また、5校の小学校には英語科の教科担任を配置し、教科担任が配置できない小学校やクラスには英語インストラクターを配置することでコミュニケーション能力の向上に努めることができた。	○
課題	全国学力状況調査「英語」の「話すこと」の調査において、全国よりも高い数値のものもあるが全体的に低い正答率である。そのため、特に中学校には、ALTを毎日配置できていない学校があるので、常時配置できるように検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



児童生徒、保護者のニーズを捉えた、フレンドリールームの運営



タブレットを活用した授業

⑧キャリア教育の推進

取組目標	受入事業所となる企業の協力により、子どもたちの望ましい勤労観・職業観や人生観を育てる体験を支援することで、職場体験学習の充実を図る。	
年度計画	中学校2年生時に1週間の職場体験、またはそれに代わる職業体験講座等をすべての中学校で実施できるように支援する。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止していた事業所での体験活動を再開することができた。また、校区の事業所の講師を学校に招き「職業体験講座」を実施した学校もあり、職場体験を契機として年間を通して、生徒が働くことの意義や価値を学ぶことができるよう支援することができた。	○
課題	5日間を通して体験活動ができる事業所を確保することが困難になってきている。活動の趣旨を理解し、商工会と連携を図りながら事業所の確保を進めていく必要がある。今後も、持続可能で、価値のある活動をしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑨郷土学習の推進

取組目標	ふるさと海津の歴史や自然に触れ、地域について学ぶことを通して郷土愛を育むための地域教材として「海津市郷土学習の手引き」の活用を目指す。	
年度計画	「海津市郷土学習の手引き」や地域資源・地域人材を活用した授業を推進する。	内部評価
実績成果	歴史民俗資料館や「ふるさとおもてなし隊」と連携し、海津の自然、歴史について、市内を探索して学ぶ機会を設けることができた。「海津市郷土学習の手引き」小学校1年生～4年生版（身の回りの自然を調べよう）」は、小学校低学年の生活科で活用できた。 平田中学校において、市内企業と連携してカリキュラムを作り上げ、「南濃みかんジュースプロジェクト」を実施し、地域資源・地域人材を活用した授業を推進することができた。	○
課題	指導いただく地域人材の方々と連携して、魅力ある地域資源に触れ、「ふるさと海津」を思う心を育てる必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



キャリアウィーク 園での体験の様子



南濃みかんについて説明を聞く様子

		担当課	教育総務課 ・ 学校教育課	
基本目標	2 学校教育の充実			外部 検証 評価 継続・妥当
施 策	4 教育環境の整備・充実			
施策方針	子どもたちの安全・安心を確保し、超スマート社会（Society5.0）の実現に向け質の高い教育を支える教育環境の整備・充実を図ります。			評価 段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	学校施設は、子どもたちが安全で快適な学習環境を整えるため、優先順位を見極め適切な維持管理ができた。安全な通学路の確保についても、道路管理者と通学路の安全対策として改修を決定し実施することができた。開校する学校でも、高速通信ネットワーク整備や大型モニターの設置など整備が完了した。今後は、施設の修繕箇所増加や通学路の交通環境の変化に伴い、財政面で大きな影響を与えるため負担の平準化を図る必要がある。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)

①学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進

取組目標	各施設の劣化状況を把握するため、建築基準法に基づく点検を実施する。そして、今後の児童生徒数の推移を勘案しつつ長寿命化計画を策定し計画的な施設整備を推進する。また、学校施設の非構造部材の耐震化を着実に進め、必要に応じたトイレの洋式温水洗浄暖房便座化の充実を図る。	
★年度計画	学校施設の老朽化による施設修繕を施し、より安全で快適な学校施設として維持する。また、海津町地域の学校統合計画を踏まえて、学校施設の老朽化対策及び非構造部材の耐震化など、改修工事の優先順位を設定しつつ、長寿命化計画の一部見直しを検討する。	内部評価
★実績成果	施設の老朽化に対応する工事については、熱中症へのリスク回避のため旧高須小学校体育館ミーティングルームエアコン改修工事や、特別な支援を要する子の増加に伴う平田中学校教室改修工事など、改修工事の優先順位を見極め適切な維持管理を図ることで、子どもたちに安全で快適な学習環境を整えることができた。	○
課題	学校施設の老朽化が進み、修繕箇所や維持管理の負担が増加している。このため、老朽化対策及び改修工事の優先順位を勘案し、予防保全的な改修を計画的に実施していく必要がある。また、学校は施設の規模が大きく改修・改築費用が多額となることから、財政面で大きな影響を与えるため、補助事業を活用するなど負担の平準化を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



エアコン改修工事 着手前
(旧高須小学校体育館ミーティングルーム)



エアコン改修工事 完了後
(旧高須小学校体育館ミーティングルーム)

②教育環境における情報機器設備の充実

取組目標	子どもたちの発達の段階に応じた情報活用能力の育成に努める。そして、電子黒板などの活用をはじめとするICT機器を活用した教育や体験活動の充実を図る。また、ICT機器やデジタル教材の活用に向けた教職員の研究体制や指導体制の充実を図る。	
★年度計画	ICTを活用した教育の充実を図るため、必要な情報機器等を整備したり、ICT支援員を小中学校に派遣する。また、オンライン授業を含め、ICTを活用した授業実践を推進する。AIドリルと電子書籍を導入し、家庭学習等の有効活用を推進する。	内部評価
実績成果	新たに開校する学校においても、ICT環境を積極的に活用するため高速通信ネットワークや大型モニターの設置など整備を充実することができた。ICT機器を積極的に活用するためICT支援事業を実施し、AIドリルを導入し積極的に活用することで、子どもたちの個別最適な学びにつながった。また、ICT研修を実施し教職員のICTスキルを高め、ICTを活用した教育の充実に努めた。	○
課題	ICTの活用は、教職員によるICTスキルに格差があり、ICTに不慣れなことで使用を抑えることも懸念されることから、教職員の間で授業に対して明確な課題意識を持ち、その解決策としてICTを活用していく共通認識を持つことが必要である。そのため、ICTの知識を習得できる研修やサポート体制などの環境を提供していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③安全な通学路の確保

取組目標	交通事故の抑止や登下校防犯の推進を図るとともに、児童生徒の安全で安心な通学路の確保に向けた環境整備を関係機関と協力しながら推進する。	
★年度計画	教育機関、警察署及び道路管理者等による通学路安全推進会議を継続的にを行い、通学路の安全対策を行うことで、通学児童・生徒の安全確保を図る。また、小学校統合に向けた、通学路の研究・調査を実施する。	内部評価
実績成果	児童生徒がより安心して登下校が行えるよう、通学路の安全対策を推進するため、通学路推進会議を3回開催し道路管理者などによる安全対策を決定することができた。また、通学路危険箇所の対策をホームページで公表することで、児童生徒や地域の方との認識を共有し、安全意識の高揚につなげることができた。	○
課題	通学路における安全の確保については、継続的に各地域の交通環境の変化や通学状況の変化など、地域に応じた新たな実情や課題を把握したうえで取り組んでいく必要がある。また、子どもたちの付き添い登校をしていただけの方や見守り活動を行っていただけの方などの地域で見守る体制づくりが課題である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



通学路安全推進会議

		担当課	学校教育課	
基本目標	2 学校教育の充実			外部 検証 評価 継続・妥当
施 策	5 豊かな心の育成			
施策方針	心のふれあいを大切にしたい温かい人間関係を通して、子どもたちの豊かな心を育みます。			評価段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

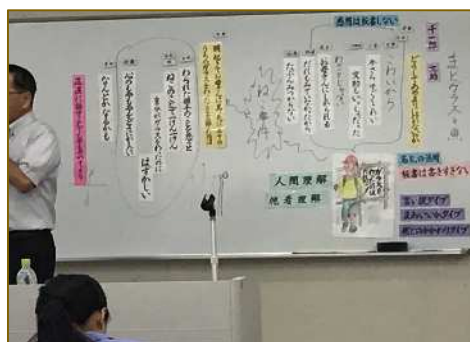
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	道徳教育や人権同和教育が各学校で確実に実施されている。また、体験的な活動を取り入れたり、日常生活の中で、多様な見方・考え方を認めながら他者を尊重したりすることを繰り返し指導している。学校の特色に合わせた体験活動や交流活動も積極的に行うことができた。今後は、地域の人材を有効に活用しながら、地域を舞台に豊かな心を育てる活動を推進していく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)

①道徳教育の充実

取組目標	人としてより良く生きる力を育むため、その基盤となる道徳的心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う道徳教育を「特別の教科 道徳」をはじめ教育活動全体を通して推進する。そのためにも、保護者や地域との連携を深め、子どもの道徳性を地域社会全体で高める道徳教育を実施する。	
年度計画	「特別の教科 道徳」の授業の充実を図る。より良く生きる力を育むために考え議論する道徳の授業を実践する。また、コロナハラスメントやいのちの大切さについて考えるなど、教育活動全体を通して道徳教育の推進に努める。	内部評価
実績成果	道徳的価値を自分との関わりで考えるとともに、多様な感じ方や考え方に接して、物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に自己の生き方についての考えを深めることができる道徳授業を目指す取組を行った。平田地区の小中学校で授業公開を行い、より良い授業にしていくための研究会を行うことができた。石津小、西江小の道徳科の研究発表を行い、市内教職員で研究成果を共有することができた。また、夏季研修で道徳科の講座を実施し、道徳教育の推進に努めることができた。	○
課題	児童生徒が自分自身のことと捉え、議論を通じて多様な考えに触れることで道徳的価値の理解を深めることを目的に、「道徳科」の指導改善を学校の実態に応じて継続的に行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



道徳科研修講座の様子

②多様な体験活動の推進

★	取組目標	各学校の実態に応じ、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など教育活動全体を通じて、自然体験、社会体験、ボランティア体験、異学年や高齢者との交流活動などの体験的・実践的活動を推進し、子どもの豊かな感性や情操を育む。	
	年度計画	地域の教育力を生かし、校外学習や、ボランティア体験、職場体験などの体験活動を通して、豊かな感性や情操を育むことに努める。	内部評価
	実績成果	小学校では野菜の収穫などの農業体験、園児や地域の方との交流活動を行った。中学校では「地域の人々から学ぶ」体験など、それぞれの学校の実情に応じた体験的学習を実施し、豊かな感性や情操を育むことにつなげることができた。	○
	課題	各学校での地域と連携したふるさと学習や体験活動のさらなる充実、また各学校の取組やノウハウを共有できる仕組みづくり、地域と学校をつなぐ地域総括コーディネーターの有効活用が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③人権同和教育の推進

★	取組目標	人権尊重と人間平等の基本理念を確立するとともに、人と人との間に存する偏見を解消する指導を行い、不合理な差別をなくし、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる教育を推進するように努める。また、家庭及び地域社会において人権意識の高揚を図る。	
	年度計画	各学校において、年間を通して人権について考える活動を位置付けるとともに、「人権について考える会」を実施し、その活動についての報告集を作成する。また、教職員の研修も、計画的に行いながら人権意識を高めるように努める。	内部評価
	実績成果	各学校で「ひびきあい活動」に取り組み、思いやりの心をもち、人を大切にすることを推進した。仲間の良さみつけを年間を通して行い、人権について考える学級活動により、各学校で特色ある取組を実施している。各校での取組は、一冊の報告集としてまとめ、各校・園の全教職員に配付し共有することができた。また、教職員の研修を実施し、人権意識を高めることができた。	○
	課題	市が企画する人権同和教育研修会等では、インターネット上の人権侵害など今日的な人権課題についても学ぶ機会を設けることができたが、地域、家庭への啓発の検討が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



ひびきあい集会で学級の取組を発表している様子



地域の方から花の育て方を教えていただいている様子

		担当課	学校教育課	
基本目標		2 学校教育の充実		外部 検証 評価 継続・妥当
施 策		6 教職員の資質の向上		
施策方針	個々の教職員の力量と組織での対応力の向上を図ります。			評価 段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評 価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	教職員の資質向上を図るために、校内、校外でさまざまな研修を行うことができた。特に、教育研究所主催で、キャリアステージに応じた研修のほか、教科指導や生徒指導、郷土学習など、学校での指導に生かせる内容を工夫して行った。今後は勤務の適正化との両立を図りながら、ニーズに合った研修を企画し、効率よく実施していく必要がある。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①「海津市教育のスタンダード」の活用				
取組目標	だれもが実践でき、だれにも力をつけることができる指導理念である「海津市教育のスタンダード」の理解と実践を図る。また、学級経営力、授業力を高めるために、小中学校教員が互いの教育課程や指導内容のつながりを把握し、義務教育9年間で児童生徒を育てる。			
年度計画	授業における各校のスタンダードを作成し、スタンダードをもとにした授業を実践する。			内部評価
実績成果	各学校において活用していた「海津市教育のスタンダード」をもとにした授業実践から、児童生徒主体の「課題解決型授業」へと授業改革を進めている。教科研究会では、すべての部会で小中合同で研究会を行い、義務教育9年間のつながりの把握に努めることができた。			○
課題	児童生徒が自ら課題を発見し、仲間と協働しながら課題解決に向けて主体的に学びを進めることができるよう、すべての学校で授業改革を進めるために教職員の指導力をさらに高めていく必要がある。			◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
②教職員研修の充実				
取組目標	「海津市教育研究所」を核として、教職員の経験や時代の変化に応じた研修の充実を図る。また、教員としての専門性や今日的な教育課題への対応力を高めるため、大学などの関係機関との連携を強化する。			
★年度計画	ICT活用技能、デジタル教科書の活用など、学校教育の今日的な課題に応じた研修を充実させる。また、「主体的、対話的で、深い学び」の実現に向け、市内全教職員で学びの改革を推進する。			内部評価
実績成果	研究所主催で「中堅幹部研修」「若手人材養成研修」「バディ研修（2年目研修）」などキャリアステージに応じた研修を14回実施し、のべ164人が参加した。また、希望制の夏期研修16講座を企画運営し、のべ255人が参加した。研修会が充実するよう、学校の要望を踏まえた研修を増やすとともに、参加者同士の交流の場面を増やし、主体的に学べるよう研修の進め方の工夫改善に努めた。			◎
課題	今後も、より学校現場のニーズに応え、教員一人一人のキャリアアップにつながる研修内容を考えていく必要がある。			◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③特別支援教育に関わる教職員の研修

取組目標	特別支援コーディネーターなどを中心として、園・学校の全職員が計画的な研修を行う事を通して、特別支援教育に対する理解を深めるとともに、就学前から園や特別支援学校との連携も図りつつ、組織的な動きを支援する。	
年度計画	教育支援委員会を開催し、情報交流を図るとともに、園・小・中が連携した教育活動ができるようにする。 園・学校ごとに計画的な研修を行い、実践内容を報告する。	内部評価
実績成果	7月と10月に教育支援委員会を開催し、適正な就学指導について情報交流を行い園・小・中が連携した教育活動につなげることができた。また、年間を通して、各園・学校で特別支援教育についての研修を計画的に行い、全職員が特別支援教育についての理解を深めることができた。	○
課題	研修によって理解を深めたが、それを実際に一人一人の子どもに合わせて適切な支援を行えるよう、確実な実践力につなげていく必要がある。また、市主催の研修会等に参加して学んだことを、学校で伝え共有する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④研究授業や公開授業、交流授業などの促進

取組目標	市内小中学校での公開授業の参加や、就学前と小学校、小学校と中学校との交流授業を促進することや、中・高との連携を図るなど、教育の資質向上に努める。	
年度計画	各校の研究授業の一覧を作成し、それを活用した授業交流を促進する。 園・小の交流を充実させる。	内部評価
実績成果	各学校で計画されている研究授業について、教育研究所で集約して一覧にまとめて各校に配付し、他校の研究授業にも積極的に参加するように働きかけた。また、授業力向上を目指し、全職員対象とした、教職員資質向上研修会を実施した。認定こども園及び小学校の教職員が参加する連携協議会を年2回実施し、意見交流を行うことによって、園・小の交流活動を充実させることができた。	○
課題	各校の授業研究が積極的に行われるよう、今後も働きかけを継続する。学校間の授業交流を促進するためには、補充に対応できるような人的配慮等もさらに必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤子どもと向き合う時間の確保

取組目標	教職員の事務負担の軽減は、教職員が授業や授業準備などに集中し、子どもと向き合う時間を確保するとともに、心身の健康を損なうことがないように、教職員の勤務時間及び内容に関する実態改善に向けた総合的・計画的な取り組みを推進する。	
年度計画	休日を含めた時間外勤務時間を正確に把握する。時間外勤務時間80時間以上の職員の心身の健康状態を確認し、働き方改革を進める。 メンタルヘルスチェックを毎月行い、教職員の心身の状況を把握する。	内部評価
実績成果	全職員の時間外勤務について正確に把握するために、全小中学校に勤怠管理システムを導入している。1カ月時間外勤務45時間以内を目指し、各校で工夫した取組を行うことができた。時間外勤務時間が80時間を超える職員については、管理職が面談を行い、心身の健康状態を確認するとともに、適正な働き方について指導を行った。	○
課題	働き方の現状把握のため、「子どもと向き合う時間があるか」、「下校後に教材作成などの時間が確保できているか」等の項目を設けてアンケートを行い、「働きがいややりがい」につなげる取組を行うことが必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

		担当課	教育総務課（給食センター）
基本目標	2 学校教育の充実		外部 検証 評価 継続・妥当
施策	7 学校給食の充実及び食育の推進		
施策方針	子どもたちが自ら健やかな体をつくることに関心を持ち、積極的に健康や食生活にかかわる態度を育成します。また、学校給食の公会計事務化の実施や故障などによる緊急時の対応策を図ります。		評価段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性			
進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	子どもたちには、学校給食を生きた教材として活用した食育を推進するため、引き続き地場産物を使用した給食を提供している。衛生管理の徹底が一層向上するよう調理員や栄養士を対象に衛生管理研修を実施した。食材の物価高騰が進むなか給食内容や質を維持するとともに給食費の保護者負担軽減を図っている。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		
2. 基本施策に関する評価シート（★は令和5年度の重点的な取り組み）			
①地域全体で取り組む食育の推進			
★	取組目標	学校年間指導計画に基づき、学校・園、家庭、地域が連携して、次代を担う子どもの望ましい食習慣の形成に努める。また、学校における食育を推進するために、学校給食の教育的意義を見直すとともに、学校の教育活動全体で食に関する指導の充実を図る。	
	年度計画	学校教育活動全体で食育推進を図り、子どもたちの望ましい食習慣の形成に努める。また、学校と地域において連携・協働し、地域産物の給食への使用拡充することで、子どもたちに食育の意識を高める。	内部評価
	実績成果	各校の「食に関する指導」の年間指導計画に基づき、給食時間の指導や教科等の授業で活用できるような献立作成を行い給食の内容や分量を示すことで、望ましい食習慣を指導することができた。また、新たに地域生産者の野菜や、海津特別支援学校で栽培された農作物を給食に取り入れることで地域産物の使用拡充を図り食育への関心を高めることができた。	○
	課題	偏った栄養摂取や朝食を食べないなど子どもたちの食生活の乱れが見られ、学校だけでなく家庭における望ましい食生活の継続的な食育を推進することが課題である。そのため、配付している「給食だより」などの情報発信を工夫していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
			
海津市学校給食センター			

②学校給食の充実

取組目標	郷土料理や外国料理だけでなく、時代の要請に即した献立を取り入れ、栄養バランスの取れた魅力ある学校給食の提供を目指す。また、地場産物の活用を図り食育の生きた教材となる学校給食の充実を図る。	
年度計画	日本の和食文化継承のため、子どもたちの嗜好も考慮しつつ、和食給食を中心とし、学校給食の充実を図り、地場産物の使用を進める。	内部評価
★実績成果	和食給食は、子どもたちが苦手な野菜や魚について、切り方や調理方法を工夫したり、食べやすい味付けを取り入れることで、食べる意欲ももてる給食提供ができた。 また、毎月1日の海津食材の日と19日の食育の日において海津市産の農産物を積極的に使用する日を設け、時季に合った地場産物を計画的に使用することができた。	○
課題	給食で地場産物を使用するには、生産の時季や数量、給食現場のニーズなどが限定される課題があり使用する食材の納入者やJAなどにより一層、連携を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③学校給食の衛生管理と事故防止の徹底

取組目標	衛生管理や事故防止の徹底を図るため、給食施設や調理機器の適正な管理にあたりとともに、さらに給食調理員や学校給食職員の徹底した衛生管理のうえで安全で安心な給食を提供する。	
年度計画	給食施設や調理機器の適正な管理にあたりとともに、衛生管理マニュアルに基づき、給食調理員や学校給食職員等に衛生管理を徹底し、安全で安心な給食を提供する。	内部評価
実績成果	令和5年度は、衛生管理研究会の指定施設となり、器具の汚染度や清掃について指導を受け、目視できない汚染に対し継続して頻繁な清掃と消毒を行う必要性を見直し、栄養教諭や調理員など衛生管理研修を実施した。	○
課題	給食に質や安全・安心を支えるのは、調理員の技能の高さと給食提供に対する意識の高さであり、それを担う人材を確保、育成していくことが重要な課題である。そのため、栄養教諭や調理員は勿論のこと学校の給食職員へも徹底した衛生管理の共通認識を持つ必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④学校給食センターの効率的な運用・整備

取組目標	学校給食の質の維持を図りながら、より効果的な給食調理業務・配送業務の運用を実施するために民間委託化を継続する。また、安全で安心な学校給食の提供に努めているものの、機械の稼働保証期間経過後の故障や経年劣化による施設修理費の増加が見込まれる中、さらに運用費の抑制に努める。	
年度計画	学校給食の調理業務及び配送業務を円滑な運営ができるよう民間へ委託業務を継続的に進める。燃料費の高騰による電気代などが値上がりするなか、効率的な施設管理を行い光熱水費などの削減に努める。	内部評価
実績成果	学校給食の質を維持しながら、より効率的な給食調理業務及び配送業務の運営が求められていることから、民間がもつ能力や競争力を活用する効率的な業務運営を導入することができた。また、光熱水費が高騰していることから、電気・ガス・水道の適切な使用と削減に努め、使用を縮減することができた。	○
課題	調理業務及び配送業務について民間委託を実施しているが、調理員の定年退職による人員の減が課題であり、安心で安全な給食提供をするためには、一定程度の給食調理員の配置が必要になる。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤学校における事務負担の軽減

取組目標	教職員の働き方改革として、教職員の事務負担の軽減に向けた、業務の役割分担・適正化を進めるため給食費の公会計事務化の調査・研究を進める。	
年度計画	教職員の事務負担の軽減に向けた業務時間の適正化を進めるため、給食費の公会計事務化の調査・研究を図る。	内部評価
実績成果	教職員の給食に課する事務負担の軽減のため、給食費の計算表を自動計算する表へ改めることができた。給食費の徴収事務の完全な公会計化について、他市町の状況把握を把握し、比較検討することができた。	○
課題	完全な公会計化は、給食費の徴収管理方法を整理する必要がある、徴収管理事務や学校での体制やコスト面など様々な課題がある。そのため、公会計化のメリット、デメリットを他市町の状況を踏まえ洗い出し、検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑥給食の提供における緊急対応

取組目標	給食設備や調理機械などの故障による迅速な復旧体制や、故障時における学校給食の提供にむけた緊急時の対応策について調査・研究を進める。	
年度計画	給食設備や調理機械などの点検結果に基づき、修繕が必要な箇所について早急に対応し、突発的な故障の場合は、迅速な復旧を図るため委託業者と連携し欠食の回避に努める。また、非常用給食備蓄品の交換時期が迫り更新業務を実施する。	内部評価
実績成果	調理機器の故障に対しては、委託業者と連携し修繕することで給食を停止するような事案も無く、計画どおり提供できた。また、非常用給食備蓄品の更新は、期限が迫る備蓄品（救給カレー）を「防災給食」として子どもたちに提供し防災意識の高揚を図り、有効期限内に全ての非常用給食備蓄品の更新が完了した。	○
課題	非常用給食備蓄品での代替え対応は、数量に限りがあり給食が提供できない日が続く場合は、保護者へ弁当の持参など理解を求めるほか、他市町の広域的な備蓄品の提供を受ける必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



農事組合法人のでら 海津市営農協議会より人参の寄贈



「食育の日」に提供した給食

		担当課	教育総務課	
基本目標		2 学校教育の充実		外部 検証 評価 継続・妥当
施 策		8 児童・生徒の減少に伴う課題の検討		
施策方針	今後、少子化が進むことが予想される中、義務教育の機会均等や教育水準の維持・向上の観点を踏まえ、学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に検討していきます。			評価 段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評 価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	令和6年4月の開校に向け、海津町地域小学校統合準備委員会において、全ての協議・調整を終え統合準備が整うことができた。また、統合整備工事については、社会情勢による材料不足など工事遅延が心配されたが、計画どおり進め、子どもたちが新たに利用する施設整備が完了した。 今後も、更なる少子化を踏まえ、学校規模の適正化等を継続的に調査・研究していく必要がある。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①「海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会」の設置と協議				
★	取組目標	児童生徒の減少が進む中で、学習環境の充実、指導の充実、教育水準の維持向上を図る観点から学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に協議する。		
	年度計画	海津地域の5校が「望ましい学校規模（1学年2クラス以上）」へと学校統合を図るべく、統合準備委員会にて保護者・地域と学校間で連携し、令和6年4月の開校へ向け、引き続き、学校施設整備や統合による調整事項の協議を行う。		内部評価
	実績成果	海津町地域小学校統合準備委員会および専門部会において、校章や校歌の完成、スクールバスルートや学校運営協議会の設置準備、保護者説明会など、開校に向けた全ての協議・調整を終え協議が完了した。また、統合整備工事は、増築棟の完成、南舎留守家庭教室の整備、体育館整備、バスの乗降場などの外構整備など予定どおり完成し子どもたちが新たに利用する施設の整備が完了した。 統合する5つの小学校の違いによるギャップ（統合ギャップ）を軽減するため、児童の交流会を増やして実施できたことや、新たな学校の教職員の配置にも配慮するなど、子どもたちファーストの受け入れ体制を整えることができた。		◎
	課題	海津町地域の小学校統合事業は、保護者を含む地域全体のご理解により計画どおり事業を完了することができた。学校規模の適正化については、様々な要素が絡む課題が多く存在しているため、地域の方の共通認識や共通理解を得て進める必要がある。今後も、更なる少子化を踏まえ、学校規模の適正化等を継続的に調査研究し地域に応じた課題を洗い出す必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津小学校北舎増築等完成イメージ



海津小学校増築棟の完成

基本目標 3

生涯学習環境の整備・充実

		担当課	社会教育課
基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価 継続・妥当	
施策	9 継続的な学習・交流の場の形成		
施策方針	生涯にわたって、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「何からでも」主体的に幅広い生涯学習の機会を享受できる学習環境の整備を図り、一人一人の「生きがいつくり」や「地域を支える人づくり」など心豊かな生活を送ることができるように学習環境の充実に努めます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	生涯学習環境の整備・充実について、令和4年度から始めた講師運営型の「市民カレッジ」「キッズカレッジ」は継続の講座に加え新たな講座を増やすことができた。また、子ども教室においても、ニーズにあった講座を開設できた。今後も引き続き学習提供者（講師）の意欲（教える喜び）と市民のニーズ（学ぶ楽しみ）を把握し、より多くの分野の講座を開設し、市民に学びの機会を享受できるように学習環境の充実に努める。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

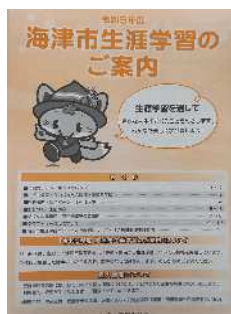
2. 参考とする指標（第2次 海津市総合計画より）

成果指標	策定時（H27）	実績値（R5）	目標値（R5）
生涯学習講座 受講者数	1,311人	746人	2,000人

3. 基本施策に関する評価シート（★は令和5年度の重点的な取り組み）

①生涯学習ニーズの把握

取組目標	市民の生涯学習ニーズを的確に把握して、講座の開設や既存講座の見直しなどを行い、目的に応じた学習内容の充実に努める。	
★年度計画	参加者の多い講座は継続させ、年齢や居住地域等を考慮し多種多様な講座開設をし、学びの選択を図る。参加者からアンケートを取り、より主体的にやりがいをもって学びができる学習の場となることを目指す。	内部評価
実績成果	生涯学習講座においては、幅広い講座の展開と市民のニーズの把握のため、受講者アンケートを取り、講座を開設した。こども教室においては、7講座すべて開催し、5講座は定員を上回る受講申し込みがあり、定員や実施回数を増やして実施した。	○
課題	市民主導型の「市民カレッジ」「キッズカレッジ」をさらに広く展開していくため、引き続き参加者からアンケートをとり、講師と打ち合わせを密にして、市民のニーズに応えられるよう、講座数増加を検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津市生涯学習のご案内（表紙）

②学習情報の収集・整備

取組目標	他市町の公民館活動や先進的な生涯学習講座の運営の仕方などについて収集し、時勢に適した学習情報を得ることで、より主体的に取り組める生涯学習講座の運営を行う。	
年度計画	市民主導型講座市民力レッジへの移行について、他市町の事例や研修、また講師や参加者からよりよい運営方法についての意見を集約し、講師と参加者が共にやりがいをもって取り組める講座の運営を目指す。	内部評価
実績成果	生涯学習講座について、他市町の生涯学習講座の冊子やHPから情報収集を行うとともに、市民力レッジ受講生にアンケートを実施し、講座のニーズを確認した。ボランティア講師の登録者を募るため市報に募集掲載をしたところ、5人新規登録者があった。	○
課題	申込者が定員に達しない講座は、市報やHP、LINE等のSNSを活用して啓発し、講座の実施運営に支障が出ないように再募集を行い、今後開催する有無について検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③社会教育施設などの整備とネットワーク化

取組目標	公民館や図書館などの社会教育施設が、地域コミュニティ形成の拠点としての役割を果たし、だれもが気軽に立ち寄り、情報交換や交流ができる場所となるように改修などを計画的に進める。また、学習機会の確保や公平性を考慮しながら、施設の統廃合やネットワーク化の検討を進める。	
年度計画	クラブ・サークル等主体的に活動されている団体の活動情報等を提供する。新設した市民力レッジ・キッズカレッジも施設を巡回させて実施する。また老朽化施設の統廃合の検討を順次行う。	内部評価
実績成果	福祉センターは、解体工事設計を実施し解体工事を完了した。 ふれあいセンター、働く女性の家、南濃コミュニティセンターについては、学習室にWi-Fi環境を整備し、多くの市民に施設を利用してもらえるよう市報掲載や施設窓口でチラシを配付した。	○
課題	文化会館は昭和55年に建築され老朽化が進行しており、また旧耐震基準のため施設の大改修が必要なことや土地が借地であることを踏まえ、将来的に廃止する。しかし同施設は各種団体が活動場所として利用しているため、隣接施設を代替施設として活用できるよう地域や各種団体などから意見を聴取して改修を行っていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津市クラブ・サークル



南濃コミュニティセンターにwi-fi設置

		担当課	社会教育課	
基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実			外部 検証 評価 継続・妥当
施策	10 多様な学習機会の提供			
施策方針	生きがいをもち、文化的で心豊かな生活を送ることができるように、地域の中での学習活動を通して共生を目指します。			評価段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	「読書のまち宣言」を実現するため、屋外でも読書を楽しめるように読書ガーデンを整備した。また、デジタル図書館を屋外で利用できるようにWi-Fiアクセスポイント増設工事を行った。今後は読書ガーデンの利用を促進するため、団体や個人の利用者のさらなる増加を図る方策を検討していく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時(H27)	実績値(R5)	目標値(R5)
市立図書館貸出数	265,257冊	146,396冊	255,000冊

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)

①生涯学習活動と指導者の育成

取組目標	市民一人一人が生涯学習を通じて、多様な学習活動ができるように、講座の充実や芸術・文化に触れる機会の提供、指導者の発掘・育成に努める。	
★年度計画	特技やキャリアを生かして、地域に還元していただけるようボランティア講師の登録の推進をする。ボランティア登録講師には、教える楽しさを感じてもらえるよう市民主導型講座市民カレッジの開設を推進する。	内部評価
★実績成果	市報を通じて生涯学習ボランティア講師の登録を公募し、登録者数が前年から6名増の15名となった。市民カレッジ・キッズカレッジの講座企画数については11講座から17講座に増やすことができた。	○
課題	多分野にわたる市民カレッジの講座を増やすため、市報やホームページを活用し、広く市民に周知を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



絵本の読み聞かせ



冬のわくわくこども教室(茶道体験)

②生涯学習の意識啓発

取組目標	生涯学習に対する市民意識の向上を図り、啓発に努めるとともに、ニーズに応じた幅広い生涯学習の場を増やす。	
年度計画	講座やイベント終了後にアンケート等を行い、市民のニーズの把握をし講座の企画に反映させる。	内部評価
実績成果	開講した講座については、参加者の8割（746人）が満足という結果であった。 また講座を継続して受講する生徒が増えている。	○
課題	新規の講座希望者の増加を図るため、市民が求める生涯学習講座を把握する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実

取組目標	多様で高度化する学習ニーズに応えるため、図書館などの学習機関を一層充実させ、利用者へのサービス向上と専門性の高い学習機会の提供に努める。	
年度計画	電子図書を含め図書館蔵書の充実に努め、利用者の学習ニーズを考慮した施設運営を進める。また、市民の学習機会の充実のため歴史講演会等を開催する。	内部評価
★ 実績成果	歴史民俗資料館では、歴史ミニ講座「れきみんアラカルチャー」において、大河ドラマと関連付けた講座を2回開催し、延べ22名の市民が参加した。 海津図書館では、読書ガーデンを整備し読書環境を充実させることができた。また、読書ガーデン含め屋外でもデジタル図書館を利用できるよう、Wi-Fiアクセスポイント増設工事を行った。	○
課題	歴史民俗資料館では、市民のニーズに合った歴史講演会等を企画するとともに、インターネットを活用して広範囲へ情報提供を行い、入館者の増加を図る必要がある。 令和6年度開館することも図書館では、読み聞かせなどを行い海津図書館と共に利用者の増加に努める。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



読書ガーデン【四阿(あずまや)の新設/テーブル・イス付】各所にベンチなどを設置



歴史アラカルチャー

		担当課	社会教育課	
基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実			外部 検証 評価 継続・妥当
施策	11 新たな学習活動への支援			
施策方針	地域性や地域文化を大切にしながら、生きがいづくり・地域づくりにつながるまちづくりを目指し、市民力を活かした多様な学習活動の支援に努めます。また、地域の人々が互いに助け合える魅力溢れる生涯学習の推進を図ります。			評価段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	生涯学習講座については、市民カレッジ、キッズカレッジを開催することができた。今後は市主催の講座から全て講師運営型の「市民カレッジ・キッズカレッジ」とし、市民主導による生涯学習の活性化を図るため、ボランティア講師の確保と市民ニーズの調査を行っていく。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成果指標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
—		—	—	—
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①学習活動を支援する人材の活用				
取組目標	地域の活動やボランティア活動を通じて、退職者や学習習得者がこれまで培ってきた技術やノウハウを市民に還元できるように環境づくりと人材の確保に努める。			
年度計画	市民主導型生涯学習講座「市民カレッジ・キッズカレッジ」を推進する。			内部評価
実績成果	市報を通じて市民主導型生涯学習講座「市民カレッジ・キッズカレッジ」の企画を公募し、令和4年度の11講座から17講座まで企画数を増やすことができた。受講者を募集した結果、12講座の開講が決定し、93名の方が受講した。			○
課題	多岐に渡る分野でボランティア講師の確保を行い、今後は市民カレッジの講座数を増加し、市民の多様なニーズに応えられるよう整備していく必要がある。			
 生涯学習講座(市民カレッジ)  生涯学習講座(キッズカレッジ)				

②高齢者のもつ技能の伝承

取組目標	地域の言い伝えや風習などの伝承を通して、子どもと高齢者が触れ合う機会を提供し、多世代にわたる市民交流を推進する。	
年度計画	地域で活動されている高齢者や団体の方を講師として講座を開催し、子どもと触れ合う機会を提供する。	内部評価
実績成果	竹炭工作体験では、子ども23人、親子3組の参加があり、参加者の9割から「講座が楽しかった」と回答があり、「古くから利用されている竹炭の良さを知ることができた。」「また参加したい。」との声があった。	○
課題	三世代交流で行っている餅つきや、応援隊講座の恵方巻づくり、竹炭工作体験など、体験と同時に地域の言い伝えや風習も交流できるように設定する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③学習機会の充実

取組目標	市民の学習ニーズに対応した学習機会を広く提供するとともに、市民協働や関係する係との連携・協力による学びの場を充実させる。	
★ 年度計画	「生涯学習講座のご案内」冊子において市政に関する出前講座を広く周知し、市民協働のまちづくり事業として市の部局(市民活動推進課)と連携を深め学習機会の充実に努める。	内部評価
実績成果	「生涯学習のご案内」について、施設への設置や社会教育課主催事業の際に配付を行った。講座の参加者募集は、市報やHP、SNS等に掲載し、市民の学習機会の充実に努めることができた。	○
課題	冊子を設置する施設を検討し、市HPや公式LINEのSNSを活用することにより、市民に広く周知していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



ふるさと楽校(竹炭工作)



高齢者学級(レクリエーション活動)

基本目標 4

青少年の健全育成

- ・ 地域交流の推進

		担当課	社会教育課	
基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進			外部 検証 評価 継続・妥当
施 策	12 地域で進める青少年の健全育成			
施策方針	世代・地域・心のつながりを強化し、地域ぐるみで良好な環境づくりを進め、青少年の健全育成を図ります。			評価段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評 価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	青少年の健全育成を図る関係諸機関と適宜会を持つことで、意見交流を行いながら進めることができた。世代・地域・心のつながりは依然として希薄の傾向にあり、アフターコロナにおいて、取り組める内容や企画の運営方法等を考えていく必要がある。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成 果 指 標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
二十歳の集い 参加率		78.7%	75.9%	80.0%
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①「こども健全育成指針」の推進				
取組目標	海津市青少年問題協議会において策定している「海津市こども健全育成指針」を市民に周知し、市民参加で推進する。			
年度計画	海津市青少年育成市民大会での活動発表等で周知を図り、啓発に努める。			内部評価
実績成果	青少年問題協議会や青少年育成推進委員会の開催によって、さまざまな立場や地域ごとの青少年健全育成に関する意見交換ができた。また、日頃から青少年のためにご尽力いただいている方々に対し、市民大会で感謝を伝え表彰した。 青少年健全育成市民大会参加者数：297名			○
課題	青少年健全育成市民大会では、青少年関係者の表彰や家庭教育講演会を行っているが、参加者の意見等を参考に市民大会の内容について見直す必要がある。			◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
②子どもの生活習慣の確立に向けた支援				
取組目標	子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズム向上につながる活動を支援する。その中でも情報モラル教育の一環として、『あったかい絆宣言』を周知し、学校やスクールサミットなどを通して情報機器を適切に利用できるように取り組む。			
★年度計画	家庭教育学級等において基本的な生活習慣が身につくように推進する。また、スクールサミットを開催し、児童生徒ができる取組を考え、児童生徒が主体となって生活リズム向上につながる活動を実践していく。情報モラルワークショップを行い、児童生徒や保護者に啓発していく。			内部評価
★実績成果	スクールサミットを開催し、「あったかい絆宣言」の見直しを行うことで、取組表の改訂を行うことができた。家庭教育学級で小学校1校において情報モラルワークショップを行い、情報モラルすごろくを通して、親子ともに楽しく情報モラルについて考える機会となった。			○

課題	情報機器の利用について低年齢化が進み、それに伴うトラブルも小学校から増加傾向にある。保護者とともに、小学生から情報モラルの啓発ができるように、青少年推進員と研修を進めながら、ワークショップの内容の充実を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
③組織的な活動の充実		
取組目標	地域のスクールボランティアやこども110番などによる見守り活動や広報啓発などを行い、環境浄化活動の充実を図る。また、家庭・学校・地域社会・警察・各種団体との連携を図り、協力体制を強化していく。さらに安全・安心な地域ネットワークを築き、地域の見守り力を高めていく。	
年度計画	青少年育成推進委員会との連携や学校警察連絡協議会、青少年問題協議会等を通して、状況把握や環境改善を図る。	内部評価
実績成果	青少年育成推進委員会、学校警察連絡協議会を開催し、様々な立場の団体を交えた意見交流を行った。青少年育成推進員との連携や青少年を取り巻く状況の把握と環境改善について議論することができた。子ども達のよい姿や課題となった意見は、それぞれの団体へと報告してもらい、関係団体が同じ認識をもつことができた。	○
課題	会議の内容について見直し、関係諸機関の立場、活動、連携にポイントを置いて話し合っていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
④青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上		
取組目標	青少年の主体性や社会性を育むために、二十歳の若者が自ら企画する「二十歳の集い」を開催していく。また、異年齢交流の場となっている子ども会活動においても、自主的に活動ができるように家庭・学校・地域の連携を図る。	
年度計画	二十歳の集い実行委員会を中心に会を企画し、「二十歳の集い」を開催する。また、子ども会活動においては地域の特性を生かして地域単位で充実した活動が行えるよう、他地区での行われている活動を周知し広めていく。	内部評価
実績成果	11月の第1日曜日に実施だが、令和5年度は11月3日（金・祝）となり3連休となったため、11月4日（土）に実施した。出席者からは、気候のよい時期であるためよかったと大変好評であった。	○
課題	「二十歳の集い」については、実行委員を募るが人数が集まらず、自分たちの手で魅力的な会を作りたいという意識が少ない。充実した会の開催のために、企画立案において実行委員と共に相談しながら会の運営補助を行っていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



情報モラルワークショップ



二十歳の集い(受付の様子)

		担当課	社会教育課
基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進		外部 検証 評価
施策	13 家庭と地域の教育力向上の推進		継続・妥当
施策 方針	「あたりまえのことができる家庭教育支援」をテーマに基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭づくりを目指します。また、子どもが健やかに育ち、生きる力を身につけ育む場の基盤づくりのために、家庭と地域の教育力を高める支援を充実します。		評価 段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	家庭教育支援については、コロナ禍で主流であった在宅での取組や、動画視聴等のSNSを活用した講座も取り入れつつ、参集型の学習会も開催され、開催方法の幅も広がった。子どもが健やかに育つことができるよう今後も支援を継続していく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
単位子ども会 会員数	4,346人	195人	400人
地域のおじさん・おばさん運動 登録者数	306人	122人	350人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)

①「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進

取組 目標	基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭を営む支援する。また、市民活動団体の協力を得て、公民館事業、地域活動など親子が一緒に参加できる場を提供し、家族が触れ合い、円滑な親子関係の構築と思いやりのある家庭づくりに取り組む。	
★ 年度 計画	子育て応援隊講座を通じて、親と子がコミュニケーションをとりながら学べる機会を提供する。子育て親育ち講座や家庭教育講演会などにおいて、時勢にあった運営の仕方や話題を提供する。	内部評価
★ 実績 成果	アフターコロナとなり、子育て応援隊講座の全講座が実施できた。定員を超える講座もあり、多くの親子がコミュニケーションをとる活動ができた。また講座で学んだことを、家庭でも実践することができた。	○
課題	HPの掲載やチラシで周知活動を行っているが、まだ不十分であり講座の存在そのものを知らない方もいる。学校や園、市民活動団体や各種会議などを通じて、直接保護者への周知を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



にこにこ子育て応援隊講座(親子カレンダー)



にこにこ子育て応援隊(ペットボトルロケット)

②子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実

取組目標	多くの親が集まる機会を活かし、子育てや教育に対する家庭の役割、親としての力を高める講座の開催などを行う。また、様々な状況にある保護者のために学習機会を提供し、専門諸機関と連携した相談体制を充実させ、子育て不安の軽減を図る。	
年度計画	家庭教育支援員をOCT文化センター内に配置し、「にこにこ子育て相談室」を設けて子育てについての相談体制を充実させる。また、次年度小学校に入学する保護者を対象に就学時健診など集まる機会を利用して「子育て親育ち講座」を開催する。	内部評価
実績成果	「にこにこ子育て相談室」における相談件数は27件であった。 「子育て親育ち講座」は、市内6校全ての小学校で対面方式の講座を実施し、次年度小学校に入学するほぼ全員である141名の保護者が参加した。	○
課題	近年の相談内容の複雑化に対応できるように、「にこにこ子育て相談チーム会」において、関係機関との連携の取り方を協議していく必要がある。相談が必要な家庭へのさらなる周知に向けて、子育て世代に向けチラシ配布やHP掲載する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③地域と連携した活動の充実

取組目標	子どもが安心して暮らせる環境づくり、地域の活性化と教育力向上のために、学校・家庭と地域との連携をより一層深め、子どもたちの活動や学習支援などに地域住民が関わりをもてるように取り組む。	
年度計画	各小学校区の地区社会福祉協議会にて実施されている三世代交流事業の活動支援を行う。	内部評価
実績成果	三世代交流は、アフターコロナとなり、地域との交流活動が徐々に再開され、6地区において実施できた。	○
課題	前例にとらわれずに、時勢に合った活動を実施できるよう、各関係団体に助言等を行っていく必要がある。 海津市子ども会育成連絡協議会については、各地区の子ども会の状況を把握し、現状を踏まえた協議会組織のあり方を見直す必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



子育て親育ち講座



にこにこ子育て支援事業(三世代交流)

		担当課	社会教育課	
基本目標		4 青少年の健全育成・地域交流の推進		外部 検証 評価 継続・妥当
施 策		14 地域間交流・多文化共生の推進		
施策方針	市民が幅広い視野をもてるように、歴史的つながりのある姉妹都市及び友好都市と交流を深め、国際感覚豊かな人材育成のために異文化理解の教育に取り組みます。			評価 段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評 価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	姉妹都市の霧島市とは、青少年を含めた市民レベルでの交流を行った。友好都市の酒田市とは、小学生の交流を通して文化や歴史を学び、相互の理解を深めることができた。 今後においても、交流活動への参加の機会を提供し、幅広い視野をもつ人材の育成をしていく。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成 果 指 標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
霧島市生徒交流事業参加率 (応募者数/定員)		100%	100%	100%
酒田市児童交流事業参加率 (応募者数/定員)		92.0%	100%	100%
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①交流教育の充実				
★	取組目標	国内における姉妹都市・友好都市との地域間交流について、市民の関心と参加を高める情報発信に努め、交流活動を通じて、相互の文化や歴史・習慣などを学び、両市の友好親善を推進する。さらに交流事業に参加しやすいような環境を整備し、幅広い視野をもつ人材育成に努める。		
	年度計画	交流を通して、互いの歴史・文化に対する理解を深められるようにし、互いに親睦を深め、学び合う交流ができるように努める。ふるさとの良さを再発見することで、ふるさとの愛着と誇りをもつ子どもの育成を推進する。		内部評価
	実績成果	霧島交流は往來の交流を行い、霧島市への訪問時は慰霊祭に参加するなど大変貴重な体験となった。 酒田交流はオンラインによる交流であったが、事前研修を行い、互いの地域の特徴について紹介し、互いの市の良さを伝え合うことができた。		◎
	課題	霧島市、酒田市共に応募した児童生徒が増えたため、参加が決まった児童生徒が、交流で学んだことや感じたことを広く伝えることができる場の設定を検討する必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
②多文化共生の推進				
—	取組目標	多文化共生の地域づくりを推し進める必要性が増しているなか、様々な国の異なる文化や価値観の理解を深め、豊かな国際性を習得する教育に取り組む。		
	年度計画	異国の文化や習慣を学び、多文化への理解を深められるよう英会話や外国料理の体験講座を開催する。		内部評価
	実績成果	異国の文化の学習については、講師の確保ができず、英会話や外国料理体験については廃止とした。市内団体が外国人向け日本語教室を開催しており、施設の貸出を行った。		○
	課題	多文化共生の推進において、安全に体験活動を行えるような企画立案をしていく一方で、それを運営できる講師の確保を行う必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

基本目標5

文化の振興

		担当課	社会教育課	
基本目標	5 文化の振興			外部 検証 評価 継続・妥当
施策	15 文化の継承と発展			
施策方針	先人が残した貴重な文化遺産を後世に引き継ぐために、保存及び保護、調査研究を推進し、文化財の歴史的価値を高めるとともに、郷土の文化資源として活用することにより、地域の活性化を図ります。			評価段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	ハリヨについて小学校などで出前講座を実施し、保全保護について周知をした。南濃地区のみならず、海津・平田地区においても積極的に実施していく。 早川家住宅について、令和7年・8年度で保存活用計画を策定し、耐震診断、建造物の改修を順次進めていく。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成果指標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
文化財保存管理件数		8件(100%)	8件 (100%)	8件(100%)
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成				
取組目標	所有者や管理者と協力して、その種別に応じた適切な保護管理体制を確立し、文化財の整備及び活用計画の作成を進める。また、後継者育成への支援をするなど、文化財の周知に努め、保存・保護を図る。			内部評価 ○ ◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
年度計画	国重要文化財「早川家住宅」に保存及び活用方法を検討し、保存活用計画策定の事前準備を進める。			
実績成果	早川家住宅について、文化庁、県担当者、専門家及び所有者と、今後の保存活用計画策定等、方向性について協議し、国庫補助金申請に関する実施計画の準備を行うことができた。			
課題	早川家住宅の価値の維持・向上を目的に保存活用計画を令和8年度までに策定し、長期的な修理計画等を立てる必要がある。			
②文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究				
取組目標	歴史資料などの収集、遺跡の調査・研究を行うとともに、新たな文化財の掘り起こしに努める。また郷土資料を市民への学習教材などに活用していくための基礎的情報を蓄積していく。			内部評価 ○
年度計画	岐阜県立大垣東高等学校と共同でハリヨの個体数等調査を行う。また市等により埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施し、基礎資料の蓄積をしていく。			
実績成果	岐阜県立大垣東高等学校との共同研究によるハリヨ個体数調査を継続して実施し、ハリヨの生息状況を把握することができた。			

課題	清水池ハリヨ生息地、北部浄水公園ハリヨ生息地ともに堆積物が増えているため、専門家と除去の時期等緊密に協議し、改善する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
③文化資源の活用		
取組目標	地域資源である文化財の価値を高めることは、地域住民がふるさとに誇りをもつことにつながるため、積極的に情報公開や活用を進める。また、文化財を活用することで、観光や文化振興など地域の活性化を図る。	
★ 年度計画	平成23年以来改訂していない文化財マップを最新のものに更新し、郷土の歴史や文化への関心を高め、文化財の活用と地域の活性化を図る。	内部評価
実績成果	文化財マップについて、平成23年度以降指定及び解除されたものを追加及び削除を行い、解説内容やマップを刷新し改訂版を作成した。	○
課題	文化財に対する馴染みが薄いため、小中学校に文化財マップを配付して、市内の歴史や文化資源に興味を抱かせるきっかけを作る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
④文化財指定基準の運用		
取組目標	海津市文化財保護条例に基づき、保存及び活用のための必要な措置を講じる。また、文化財指定基準に基づき、歴史的・文化的価値のある文化財を掘り起こすなど基準の運用を図る。	
年度計画	文化財所有者及び管理者に対し、文化財保護事業費補助金等の支援を実施する。また、歴史的・文化的価値のある文化財の調査・研究を行う。	内部評価
実績成果	文化財保護事業費補助金を交付し、文化財所有者や管理団体等の支援を行い文化財の保護に努めた。	○
課題	後継者不足などの理由から伝統行事の継続が難しい状況にあるため、他市町村の状況を調査研究していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



早川家住宅



ハリヨ

		担当課	社会教育課	
基本目標	5 文化の振興		外部 検証 評価	継続・妥当
施策	16 豊かな自然と文化財を愛する心の育成			
施策方針	郷土の歴史や文化財に、誇りと親しみをもつことのできる普及・啓発活動を推進するとともに、市民が地域の文化遺産を知り、守り、伝えることによって、文化財愛護に対する意識高揚を図ります。		評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	歴史民俗資料館常設展示リニューアル計画について、検討委員会を開催して展示更新の内容や手法の検討を行い、業者と具体的な検討を重ね、令和7年度リニューアルオープンをする。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成果指標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
歴史民俗資料館 1日平均入館者数		37人	33.4人	35人
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①文化財の情報発信と周知				
取組目標	文化財マップなど郷土の文化を紹介・案内する資料を充実し、史跡巡りや学習会などを行って、郷土文化を知る機会の拡大を図る。また、文化財などを案内するボランティアガイド「ふる里おもてなし隊」との連携強化を図る。			内部評価 ○ ◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
年度計画	ボランティアガイド「ふる里おもてなし隊」と文化財に関する情報を共有し、連携の強化を図る。			
実績成果	ふるさとおもてなし隊について、歴史民俗資料館と連携し市内文化財の研修を行うとともに、市外のボランティアガイドと意見交換し情報の共有を行った。			
課題	ふるさとおもてなし隊の会員が高齢化しており、新規会員を増やす必要がある。			
				
文化財マップ		ふる里おもてなし隊		

②自然・歴史資源の発見と活用

取組目標	郷土の文化に触れ、自然景観を見て歩き、歴史を学ぶことのできる機会を提供する。また、多様な分野における有識者の活用やメディアへの情報発信によるPRなどに努める。	
年度計画	歴史講座や体験プログラムなどを通じて、歴史文化資源の活用を図る。また、ホームページや広報メディアへの効率的な情報発信により広域でのPRに努める。	内部評価
実績成果	市内の小学生に向けて、ハリヨについての出前講座を実施（小学校2校実施）し、その生息地における保全保護について周知を行った。また交流のある他市町への小中高生に向けての紹介ができるように、市内の史跡をめぐるなどの活動も行った。	○
課題	市内の文化財資源、環境資源の掘り起こしのために継続して調査研究を進め、それをよりよく活用するための情報収集や市民との連携及び情報共有を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③歴史民俗資料館運営の充実

取組目標	入館者が減少傾向にあることを踏まえ、より一層の調査・研究を進めながら企画展などの事業を展開する。また、館内リニューアルを検討しながら入館者の増加を目指す。	
年度計画	魅力ある歴史民俗講座や利用者の共感を得られる企画展示を実施してリピーターの確保や新たな入館者の増加に努める。また、歴史民俗資料館の施設の充実を図るため、リニューアル検討委員会の助言に基づきリニューアル計画を進め、施設改修の具体的実施設計を作成する。	内部評価
★ 実績成果	社会見学来館校93校、企画展5回開催（合計入館者数3,121人）入館者数は前年度に比べて2割以上増加した。そのうち市内5校の小学校の閉校に伴って開催した企画展「ふるさとの学び舎Ⅳ」【第1部】・【第2部】は市民の関心が高く、期間中計1,693人の入館があった。また、常設展示リニューアル等改修工事に着手し、リニューアルオープンに向けた具体的なスケジュールを作成した。	○
課題	リニューアル工事を着実に進めるとともに、企画展や歴史講演会等などの事業を展開して、入館者の増加や施設の魅力向上を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



歴史民俗資料館出前講座



歴史民俗資料館季節展示「おひなさま」

		担当課	社会教育課	
基本目標	5 文化の振興			外部 検証 評価
施 策	17 生きがいと共生、文化芸術活動の推進			
施 策 方 針	地域の人々が、郷土の文化を愛し、生きがいを感じられるような文化活動や創作活動を支援します。また、質の高い芸術に触れる機会を提供することで豊かな心を育むとともに、市民参加型による芸術創作活動に取り組める環境づくりをします。			評価 段階
				拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評 価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	かいづっち合唱団のレッスンや文化展の開催方法も通常に戻り、市民参加型による芸術活動を実施することができた。次年度は「清流の国ぎふ」文化祭2024も開催され、芸術文化に関心が集まるので、より市民が参加しやすい芸術文化事業を計画していく必要がある。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成 果 指 標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
市内の文化団体登録者数		1,557人	845	1,500人
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①市民文化活動への支援				
取組 目標	参加する人たちが生きがいを見だし、自己表現のできる機会をつくるとともに、文化レベルの向上につないでいくことができる文化団体が行う活動において、成果発表をする活躍の場を提供し、活動しやすい環境づくりに努める。			
年度 計画	令和6年度に開催される国民文化祭を見据え、文化展の開催方法を検証し、市民が参加しやすい文化展を開催していく。また、文化協会に補助金等の支援を実施し、活動しやすい環境づくりに努める。			内部評価
実績 成果	文化展は、展示方法、日程等、通常での展示形式で開催した。出展数が昨年より57作品増であった。 出展数:324作品(昨年比:＋57) 来場者数:1,136人(昨年比:－6) また、補助金等の支援をしている文化協会においては、成果発表の場として市民文化祭を開催し、日頃の成果を発表することができた。			○
課 題	今年の「清流の国ぎふ」文化祭2024を機に文化協会主催の市民文化祭と文化展を統合できるように調整していく。			◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
②文化や芸術に親しむ機会の提供				
取組 目標	情緒豊かな心を育み感性を高めるため、幼少期から優れた文化芸術に触れ合う機会を提供する。			
年度 計画	文化庁が実施する「文化芸術による子供育成推進事業」を市内小中学校に周知し、積極的に活用してもらえるよう働きかけ、優れた文化芸術に触れ合う機会を提供する。			内部評価
実績 成果	文化庁が実施する「文化芸術による子供育成推進事業」である「伝統文化親子教室事業」4件(将棋教室、茶道教室2件、舞踊教室)、や「芸術家派遣事業」1件(城山小学校)、「芸術文化巡回事業」2件(吉里小学校、大江小学校)の活用を積極的に進め、伝統文化に触れる機会を与えることができた。			○

課題	実施団体や応募学校に偏りがみられるため、校長会等を通じて働き掛けを行う。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
③市民参加型による芸術創作活動の奨励		
取組目標	多くの市民がともに創ることの喜びや生きがいを感じられるように、主体的に企画・創作する文化芸術活動を奨励し、推進に努める。	
★ 年度計画	令和6年度に開催される国民文化祭に向けて、関係者及び関係団体と実施内容を協議し、市民が主役の国民文化祭となるよう準備を進める。	内部評価
実績成果	「清流の国ぎふ」文化祭海津市実行委員会を設立し、海津市が地域文化発信事業として実施する「海津市文化フェスティバル」の開催に向け、市民吹奏楽団を立ち上げるなど本事業に向けて準備ができた。また、3月にプレ公演を開催し541人の入場者があった。	◎
課題	今年度は開催年でもあるため、昨年以上に関係機関及び団体と緊密な協議をして行く必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
④多様な文化芸術活動の支援		
取組目標	文化芸術活動の活性化と人材育成を図るため、音楽や演劇をはじめとする様々な文化芸術活動を積極的に支援する。	
★ 年度計画	創設7年目を迎える「かいづっち合唱団」について、新規団員を募集し、子どもたちが音楽を楽しめる環境づくりを継続して実施していく。	内部評価
実績成果	「社会を明るくする運動推進大会」や「『清流の国ぎふ』文化祭2024プレ公演」に出演するなどとして、発表することの楽しさや経験を積ませることができた。また、新たに3人の子が入団し、団員相互の交流も含め楽しく活動を実施することができた。	○
課題	中学校での部活動または地域クラブとの掛け持ちが難しいため、中学生になると退団していく傾向にあるため、PRの場を増やし魅力ある団体にしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



かいづっち合唱団



海津市民吹奏楽団

基本目標 6

スポーツ活動の振興

		担当課	スポーツ課	
基本目標	6 スポーツ活動の振興			外部 検証 評価
施 策	18 スポーツ活動の充実			
施 策 方 針	市民が健康で活力のある生活が送れるように、各々のライフスタイルやライフステージに応じた、参加できるスポーツ活動の機会を提供します。			評価 段階
				拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評 価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	新型コロナウイルス5類移行に伴い、市民参加型スポーツ活動の機会を提供することができた。引き続き、関係団体と連携を図り、また市報やSNS等を活用し、スポーツ活動の機会の提供を進めていく。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成 果 指 標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
体育大会 参加者数		1,143人	500人	1,500人
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①子どものスポーツ活動の推進				
★	取組 目 標	子どもの健全育成のため、スポーツ少年団や学校部活動などスポーツの活動の場となる団体等の活動を支援する。		
	年 度 計 画	スポーツ協会とスポーツ少年団・学校部活動・中学校地域クラブとの連携を図り、子どものスポーツ活動の場となる団体等の活動の支援する。		内部評価
	実 績 成 果	スポーツ協会、スポーツ少年団、学校及び総合型地域スポーツクラブと連携し、子どもたちが地域でスポーツクラブ活動ができるよう団体の運営支援等を行った。		○
	課 題	少子化や子どもたちのニーズの多様化により、スポーツ少年団及び休日の地域スポーツクラブ活動に参加する子どもたちが減少している状況にある。 子どもたちがスポーツ活動に参加する機会を創出できるよう検討する必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
②高齢者や障がい者スポーツ活動の推進				
	取組 目 標	室内でも気軽にできるスポーツ教室を開催し、高齢者や障がい者が楽しくスポーツに親しむ機会を提供するよう努める。		
	年 度 計 画	だれもが気軽に参加できる軽スポーツ教室の開催に努める。また、出前講座を通じて、様々な人が軽スポーツを体験できる機会をつくる。		内部評価
	実 績 成 果	新型コロナウイルス5類移行に伴い、各種団体・サークルから軽スポーツ指導及び出前講座の依頼が増加した。また、スポーツ推進委員と身体障害者協会海津市支部が連携しボッチャ大会を開催し、誰もが軽スポーツを体験できる機会を提供することができた。		○

課題	障がい者と健常者がともに参加しやすいスポーツができる機会を整備し、軽スポーツ教室開催などについて周知を図ることが必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
③市民参加型スポーツ活動の推進		
取組目標	体育協会、スポーツ推進委員と連携して、各種スポーツ大会を開催するなど、地域を核としたスポーツ大会の内容の充実を図り、だれもが気軽に楽しめる市民参加型のスポーツ行事を開催する。	
★ 年度計画	体育協会・スポーツ推進委員・各地区体育推進員と連携し、地域を核とした市民参加型のスポーツ行事を開催する。	内部評価
実績成果	スポーツ推進委員が中心となり、3年ぶりにタスポニー交流大会と平田地区運動会を開催し、地域を核とした市民参加型のスポーツ行事を行うことができた。	○
課題	地区運動会は高齢化等に伴い、下多度・城山・石津地区の体育振興会の運営が難しい状況が続いている。今後も自治会等と継続的に協議を重ねながら、事業廃止等を含めた事業の見直しを図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
④スポーツ観戦機会の創出		
取組目標	「みる」スポーツを通して、さらに市民のスポーツに対する意識高揚を図るため、ボート、カヌー及びトライアスロン競技など本市の特徴的なスポーツ環境を生かし、スポーツ観戦機会を創出し、競技への関心を高める。	
年度計画	トライアスロン大会などの長良川サービスセンターで開催される各種スポーツ大会への支援・PRを行うことで、競技への関心を高める。また、FC岐阜ホームタウンデーの事前周知を行い、スタジアムでの観戦機会を創出する。	内部評価
実績成果	長良川サービスセンターで開催される各種スポーツ大会（トライアスロン、レガッタなど）が開催され、大会支援及びPRを行った。また、FC岐阜ホームタウンデーについては、無料観戦チケットの情報を市民に周知した。その結果、市民150人がスタジアムで観戦し、観戦機会を創出することができた。	○
課題	より多くの市民に対して、スポーツ観戦機会を創出できるよう、引き続きSNS等を活用して情報提供を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



タスポニー交流大会



日新野球クラブ(休日部活動の地域移行)

		担当課	スポーツ課	
基本目標		6 スポーツ活動の振興		外部 検証 評価
施 策		19 スポーツ施設・備品の充実		
施策方針	市民が気軽に安全かつ快適にスポーツ活動ができるように、施設の充実を図ります。また、スポーツ備品の充実を図り、貸出しにより市民や団体のスポーツ活動への参加を支援します。			評価段階
				拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性				
進捗評価区分		評 価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	A	スポーツ施設の老朽化による修繕や環境改善を行った。今後も、施設の充実を図るため、整理統合も含めた適正な配置計画を検討する。	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成 果 指 標		策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
スポーツ推進委員の活動回数		37回/年	113回/年	100回/年
3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)				
①体育施設の充実				
★	取組目標	社会体育施設の計画的な統廃合を進め、利用者が安全で快適にスポーツを楽しめるように環境づくりを進めるとともに施設の長寿命化とグラウンド・ゴルフ場の拡充を目指す。また、市民が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、教育施設のスポーツ開放を継続的に進める。		
	年度計画	活動の多様化によるレクリエーション需要の低下や社会環境の変化に伴い、体育施設の集約化に係る事業を進める。また、スポーツ施設の運営管理と施設維持のための改修・修繕工事などを施し、安心で安全な環境づくりを図る。		内部評価
	実績成果	体育施設の照明器具取替、浄化槽プロア清掃など、延べ25件の修繕等を行い、市民が利用しやすいスポーツ環境を整備した。		○
	課題	平田体育館の耐震や改修工事など長寿命化を図るとともに、施設の整理統合も含めた計画を策定する必要がある。また、水銀灯の製造中止に伴い、体育施設のLED化を計画的に進めていく必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
②スポーツ備品の充実				
★	取組目標	市民や団体のスポーツ活動を支援するため、スポーツ備品の充実を図り、出前講座などを通じてスポーツ備品である貸出品を利用した軽スポーツ教室を開催する。		
	年度計画	スポーツ活動の支援をするため、スポーツ備品の充実を図る。また貸出品を利用した出前講座・軽スポーツ教室を開催する。		内部評価
	実績成果	グラウンド・ゴルフ用品やボッチャなど、市民へ13件のスポーツ備品の貸出を行った。また、軽スポーツ教室を開催し、延べ1,566人が利用した。		○
	課題	市民が気軽に軽スポーツ教室へ参加できるよう、更なる周知をする必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

		担当課	スポーツ課		
基本目標	6 スポーツ活動の振興			外部 検証 評価	継続・妥当
施 策	20 スポーツ指導者・団体の育成				
施策方針	体育協会などの既存のスポーツ団体及び総合型地域スポーツクラブの活動を支援します。また、スポーツ指導者研修の充実を図ります。			評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	スポーツ協会、スポーツ少年団及び総合型地域スポーツクラブの運営支援を行った。また、スポーツ指導者に対して、講習会を実施し、指導者の資質向上を図った。 引き続き、スポーツ団体の運営支援及びスポーツ指導者研修会の充実を図る。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R5)	目標値 (R5)
—	—	—	—

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和5年度の重点的な取り組み)

①スポーツ団体の育成

取組目標	体育協会などのスポーツ団体及び総合型地域スポーツクラブの活動を継続して支援しつつ、競技団体などの統廃合・法人化を検討し、持続可能な組織への転換を支援する。	
年度計画	各団体の活動を継続して支援しつつ、スポーツ団体間の連携を促し、それぞれの活動の活性化や、運営の効率化などを進める。	内部評価
実績成果	総合型地域スポーツクラブについては、県スポーツ協会と連携し、安定的で持続可能なクラブ運営ができるよう協議を行った。 また、スポーツ協会及びスポーツ少年団活動の活性化及び運営の効率化について助言等の支援をした。	○
課題	スポーツ協会の法人化については、事務の担い手が懸案事項となっており、団体と協議を重ねる必要がある。 また、総合型スポーツクラブにおいては、引き続き、スタッフの高齢化が問題となっており、持続可能なクラブ運営となるよう人材育成が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



スマイルクラブこん平田(総合型地域スポーツクラブ) (一社)南濃スポーツ(総合型地域スポーツクラブ)

②指導者の育成と確保及び活用

取組目標	スポーツ指導者に対する研修を充実し資質の向上を図り、市民ニーズに合った指導が行われるように指導者間の情報交換や情報共有を進めます。また、教職員の働き方改革の推進に伴い部活動のクラブ化を関係機関と連携し検討する。	
★年度計画	スポーツ指導者の研修の情報提供・情報共有を図り、指導者の育成と資質向上に努める。また、令和4年度に設立された中学校地域クラブと連携し、更なる部活動のクラブ化の推進を図る。	内部評価
実績成果	スポーツ協会と連携し、指導者バンク登録者向け講習会開催により、スポーツ指導者の資質を向上することができた。 また、海津市中学校地域クラブと連携し、休日に生徒が充実した地域スポーツクラブ活動が行えるようボール等の用具を充実し活動環境を整えた。海津市中学校地域クラブに加入する生徒数も増え、休日部活動を推進することができた。	◎
課題	スポーツ協会の指導者バンク登録者は、競技種目により指導者が不足している。引き続き、各競技団体において、指導者の発掘・育成が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③競技スポーツ活動の支援

取組目標	本市出身の世界で活躍が期待される五輪選手や五輪候補選手を支援する。特に東京2020オリンピック・パラリンピックを重点的に応援する。	
★年度計画	選手後援会などの応援組織と連携し、本市出身の世界で活躍が期待される五輪選手や五輪候補選手を支援する。また、全国大会に出場する市民および市内競技団体を支援する。	内部評価
実績成果	全国大会に出場する市民及び市内競技団体に対して、大会出場にかかる経費を補助した。また、今後活躍が期待される選手の支援も行った。 本市出身の安藤友香選手が名古屋ウィメンズマラソンで優勝したことに伴い、懸垂幕を庁舎に掲出し、選手の活躍を市民にPRした。	○
課題	今後活躍が期待される選手に対して、引き続き大会支援やPRが必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



指導者バンク登録者向け講習会(市スポーツ協会)



名古屋ウィメンズマラソン優勝(安藤友香後援会)

IV 教育委員会の施策 外部評価

(1)外部評価一覧表

第2次海津市教育振興基本計画		「基本目標」
【基本目標の施策】		担当課
基本施策		外部評価
「基本目標1」 子ども・子育て支援の充実		
【施策1】 就学前教育・保育の総合的な提供		こども未来課
① 認定こども園における幼児教育の推進		継続・妥当
② 小学校との連携		
③ 配慮が必要な子どもへの支援		
④ 就学前教育・保育施設の整備		
⑤ 保育教諭の資質向上		
【施策2】 子育て家庭への支援の充実		こども未来課
① 多様な子育て支援サービスの充実		継続・妥当
② 相談体制の充実		
③ 情報提供の充実		
「基本目標2」 学校教育の充実		
【施策3】 生きる力を育む教育の推進		学校教育課
① 「軸」を明確にした学校経営の推進		継続・妥当
② 確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実		
③ 基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実		
④ 思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実		
⑤ 学びに向かう力を高める取組の充実		
⑥ 多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実		
⑦ 外国語活動の充実		
⑧ キャリア教育の推進		
⑨ 郷土学習の推進		
【施策4】 教育環境の整備・充実		教育総務課・学校教育課
① 学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進		継続・妥当
② 教育環境における情報機器設備の充実		
③ 安全な通学路の確保		
【施策5】 豊かな心の育成		学校教育課
① 道徳教育の充実		継続・妥当
② 多様な体験活動の推進		
③ 人権同和教育の推進		
【施策6】 教職員の資質の向上		学校教育課
① 「海津市教育のスタンダード」の活用		継続・妥当
② 教職員研修の充実		
③ 特別支援教育に関わる教職員の研修		
④ 研究授業や公開授業、交流授業などの促進		
⑤ 子どもと向き合う時間の確保		
【施策7】 学校給食の充実及び食育の推進		教育総務課(給食センター)
① 地域全体で取組む食育の推進		継続・妥当
② 学校給食の充実		
③ 学校給食の衛生管理と事故防止の徹底		
④ 学校給食センターの効率的な運用・整備		
⑤ 学校における事務負担の軽減		
⑥ 給食の提供における緊急対応		
【施策8】 児童・生徒の減少に伴う課題の検討		教育総務課
① 海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会の設置と協議		継続・妥当
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実		
【施策9】 継続的な学習・交流の場の形成		社会教育課
① 生涯学習ニーズの把握		継続・妥当
② 学習情報の収集・整備		
③ 社会教育施設などの整備とネットワーク化		

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」	
【基本目標の施策】	担当課
基本施策	外部評価
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実	
【施策10】 多様な学習機会の提供	社会教育課
① 生涯学習活動と指導者の育成	継続・妥当
② 生涯学習の意識啓発	
③ 図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実	
【施策11】 新たな学習活動への支援	社会教育課
① 学習活動を支援する人材の活用	継続・妥当
② 高齢者のもつ技能の伝承	
③ 学習機会の充実	
「基本目標4」 青少年の健全育成・地域交流の推進	
【施策12】 地域で進める青少年の健全育成	社会教育課
① 「こども健全育成指針」の推進	継続・妥当
② 子どもの生活習慣の確立に向けた支援	
③ 組織的な活動の充実	
④ 青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上	
【施策13】 家庭と地域の教育力向上の推進	社会教育課
① 「あたりまえ」のことができる家庭教育支援」の推進	継続・妥当
② 子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実	
③ 地域と連携した活動の充実	
【施策14】 地域間交流・多文化共生の推進	社会教育課
① 交流教育の充実	継続・妥当
② 多文化共生の推進	
「基本目標5」 文化の振興	
【施策15】 文化の継承と発展	社会教育課
① 指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成	継続・妥当
② 文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究	
③ 文化資源の活用	
④ 文化財指定基準の運用	
【施策16】 豊かな自然と文化財を愛する心の育成	社会教育課
① 文化財の情報発信と周知	継続・妥当
② 自然・歴史資源の発見と活用	
③ 歴史民俗資料館運営の充実	
【施策17】 生きがいと共生、文化芸術活動の推進	社会教育課
① 市民文化活動への支援	継続・妥当
② 文化や芸術に親しむ機会の提供	
③ 市民参加型による芸術創作活動の奨励	
④ 多様な文化芸術活動の支援	
「基本目標6」 スポーツ活動の振興	
【施策18】 スポーツ活動の充実	スポーツ課
① 子どものスポーツ活動の推進	継続・妥当
② 高齢者や障がい者スポーツ活動の推進	
③ 市民参加型スポーツ活動の推進	
④ スポーツ観戦機会の創出	
【施策19】 スポーツ施設・備品の充実	スポーツ課
① 体育施設の充実	継続・妥当
② スポーツ備品の充実	
【施策20】 スポーツ指導者・団体の育成	スポーツ課
① スポーツ団体の育成	継続・妥当
② 指導者の育成と確保及び活用	
③ 競技スポーツ活動の支援	

(2) 外部評価（学識経験者による意見）

岐阜大学教授

小林 一貴

海津市教育委員会点検評価について

「令和 5 年度 教育委員会の事務に関する点検評価報告書」に基づき、基本目標における施策について評価・意見を述べさせていただきます。

基本目標 1・施策 1、2 については、集団生活における園児への支援の必要が増してきており、園小連携に加え、家庭支援と支援人材の育成力を入れる必要があります。

基本目標 2・施策 3 では、知識・技能の習得、思考力等の育成に重点が置かれ、学校ごとに授業改善が図られています。ICT 活用の目的は多様化しており、それに応じた授業実践の推進が求められます。施策 4 では、施設面の維持管理の計画性が重要となっており、管理者、利用者との相互の検討が必要な状況にあります。施策 5 では、地域の教育力に重点が置かれていることが注目されます。施策 6 では、教員のキャリアステージに応じた研修が行われている点が評価できます。施策 7 では、地場産物の使用が積極的かつ計画的になされ、取り組みが発展的に進められています。施策 8 については、小学校統合事業の完了に伴い、統合に伴う取り組みも開始され、課題の整理と継続的な検討が求められます。

基本目標 3・施策 9 では、市民のニーズを汲み取りながら生涯学習講座が継続され、子ども教室もニーズが高く、継続の中から次の発展的継続がなされていくような状況にあります。施策 10 では、生涯学習の講座が増えつつあり、講師と受講者の一体的な運営がとられつつあります。施策 11 では、多世代にわたる市民交流が推進されており、子どもたちに体験を通した地域とのつながりが醸成されることが望めます。

基本目標 4・施策 12 については、情報モラルが将来的に当たり前という感覚で定着していくことが望まれ、より積極的な教育、支援が重要になります。施策 13 では、子育て応援隊講座が規模を大きくしながら行われるなど、応援・支援をする側、される側の協働による体制構築に期待をいたします。施策 14 では、霧島交流では往来がなされ、文化・歴史の相互理解、国際感覚の豊かな感覚の芽となる大切な取り組みが行われています。

基本目標 5・施策 15 では早川家住宅の活用について、保護管理体制の確立を課題とした取り組みが具体的に進められています。施策 16 では、企画展の積極的な開催が成果を上げており、ふるさとへの関心はもとより、近隣地域とのつながりを視野に入れた文化・環境財資源の活用がなされています。施策 17 では、今後のよりより創意ある活動につながるような活動の振り返りの機会や団体間の情報交換の機会なども求められます。

基本目標 6・施策 18 では、運動会の開催が再開され、観戦を含めたスポーツ推進の目的の議論が進められる必要があります。施策 19 については、施設面の課題があるものの、備品の貸し出しを通した軽スポーツに取り組む機会が設けられています。施策 20 では、指導者の資質向上、スポーツクラブに参加する生徒増など、実質的な成果が評価できます。

いずれの目標・施策において、重点事項を中心に、取り組みが重ねられ、進められてきています。これまでの成果と課題をふまえた着実な取り組みの継続を通して、次の発展的な取り組みがなされている状況にあります。

令和5年度 教育委員会の事務に関する点検評価報告書

令和6年9月発行

発行/海津市教育委員会

〒503-0695

岐阜県海津市海津町高須 515 番地

TEL 0584-53-1467 Fax 0584-53-1608

<https://www.city.kaizu.lg.jp/>